

科目名 Course Title	一般教育演習(フレッシュマンセミナー) [Freshman Seminar]		
講義題目 Subtitle	ムーミンの国へようこそ		
責任教員 Instructor	池田 文人 [Fumihito IKEDA] (高等教育推進機構)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type	全学教育科目(一般教育演習)		
開講年度 Year	2011	時間割番号 Course Number	000009
開講学期 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class	演習	対象年次 Year of Eligible Students	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	基礎 1-52 組		
補足事項 Other Information			
キーワード Key Words			
ムーミン、トーベ・ヤンソン、フィンランド、教育、文化、質問学			
授業の目標 Course Objectives			
ムーミンはカバではありません！ムーミンたちはすべて、トーベ・ヤンソンが作り出した「いきもの」です。北欧に古くから伝わるサーガ(物語)に登場する妖精との類似が指摘されています。こうした北欧色が色濃く漂うムーミン物語を題材として、フィンランド人の自然観や人間観、人生観を学びます。これにより、自らがよりよく生きていくための指針を考えることが本授業の目標です。 しかし、なぜ今フィンランドなのでしょう？それは、とても小さく寒い国なのに、とても「熱い」国だからです。経済協力開発機構(OECD)が実施する 15 歳時の学力調査(PISA)で世界一を維持し続け、世界経済フォーラム(WEF)による国際競争力調査でも世界トップクラス。一方の日本はいずれも下降の一途。フィンランドと日本の明暗を分けているものはなんのでしょうか？ムーミン物語を通じて日本の将来と自分の生き方について考えていきましょう。			
到達目標 Course Goals			
・物語のもつ構成、修辞、比喩、対話の四つの要素について説明できる ・ムーミン物語の個々の作品の四つの要素を的確に説明できる ・ムーミン物語全体の四つの要素を的確に説明できる ・よい質問がもつ、意図と背景という二つの条件について説明できる ・よい質問を実際につくることができる			
授業計画 Course Schedule			
以下の計画は本授業のガイドラインです。受講者の理解度等に応じて予定を変更する場合があります。			
1 時間目			
・『小さなトロールと大きな洪水』の解説を通じたムーミン物語の紹介 ・授業内容と日程について ・成績評価の仕方について(質問に関するレクチャーを含む) 宿題:『小さなトロールと大きな洪水』について質問を挙げる			
2 時間目			
・『ムーミン谷の彗星』の解説(講義形式) 宿題:『ムーミン谷の彗星』について質問を挙げる			
3 時間目			
・『ムーミン谷の彗星』を読み解く(グループワーク) 宿題:『ムーミン谷の彗星』における物語の要素についてのレポート			
4 時間目			
・『楽しいムーミン一家』の解説(講義形式) 宿題:『楽しいムーミン一家』について質問を挙げる			
5 時間目			
・『楽しいムーミン一家』を読み解く(グループワーク) 宿題:『楽しいムーミン一家』における物語の要素についてのレポート			
6 時間目			
・『ムーミンパパの思い出』の解説(講義形式)			

宿題:『ムーミンパパの思い出』について質問を挙げる

7 時間目

・『ムーミンパパの思い出』を読み解く(グループワーク)

宿題:『ムーミンパパの思い出』における物語の要素についてのレポート

8 時間目

・『ムーミン谷の夏まつり』の解説(講義形式)

宿題:『ムーミン谷の夏まつり』について質問を挙げる

9 時間目

・『ムーミン谷の夏まつり』を読み解く(グループワーク)

宿題:『ムーミン谷の夏まつり』における物語の要素について論じる

10 時間目

・『ムーミン谷の冬』の解説(講義形式)

宿題:『ムーミン谷の冬』について質問を挙げる

11 時間目

・『ムーミン谷の冬』を読み解く(グループワーク)

宿題:『ムーミン谷の冬』における物語の要素についてのレポート

12 時間目

・『ムーミンパパ、海へいく』の解説(講義形式)

宿題:『ムーミンパパ、海へいく』について質問を挙げる

13 時間目

・『ムーミンパパ、海へいく』を読み解く(グループワーク)

宿題:『ムーミンパパ、海へいく』における物語の要素についてのレポート

14 時間目

・『ムーミン谷の 11 月』の解説(講義形式)

宿題:『ムーミン谷の 11 月』について質問を挙げる

15 時間目

・『ムーミン谷の 11 月』を読み解く(グループワーク)

宿題:『ムーミン谷の 11 月』における物語の要素についてのレポート

16 時間目

・ムーミン物語全体を読み解く(グループワークと討論)

最終レポート課題:『ムーミン谷の仲間たち』の一話を解釈し論じる

準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework

- ・次の授業で扱う作品を読んでくる(単行本一冊程度を二週間で)
- ・授業で扱った作品についての質問を 10 個以降挙げ、電子メールで提出(隔週)
- ・授業で扱った作品についてのレポート(800字程度)を電子メールで提出(隔週)

成績評価の基準と方法 Grading System

隔週の質問(文章表現力+独創性):40%

隔週のレポート(文章表現力+説得力):40%

最終レポート(文章表現力+説得力):20%

テキスト・教科書 Textbooks

以下のムーミン物語8冊を授業で使います。出版社は問いません。

たのしいムーミン一家、ムーミン谷の十一月、ムーミン谷の彗星、ムーミン谷の仲間たち、ムーミン谷の夏まつり、ムーミン谷の冬、ムーミンパパ海へいく、ムーミンパパの思い出

講義指定図書 Reading List

ムーミン童話の百科事典／高橋静男「ムーミンゼミ」、渡部翠編:講談社, 1996

ムーミン童話の世界事典:クイズ集付き／渡部翠監修:講談社, 2005

ムーミン童話の仲間事典:クイズ集付き／渡部翠監修:講談社, 2005

ムーミン谷への旅：トーベ・ヤンソンとムーミンの世界:講談社, 1994
フィンランドの理科教育：高度な学びと教員養成／鈴木誠編著:明石書店, 2007
青い光が見えたから：16歳のフィンランド留学記／高橋絵里香:講談社, 2007

参照ホームページ Websites

<http://www.finland.or.jp/ja/>, <http://www.moomin.co.jp/>

備考 Additional Information

- ・授業についての質問を提出することで出席とします
- ・質問やレポートは電子メールによる提出を受け付けます
- ・本授業の受講を通じて下記のいずれかのシリーズ全8巻を読むことを推奨します

講談社 ムーミン童話全集 全8巻 一冊 1,600 円

講談社文庫 全8巻 一冊約 400 円

講談社青い鳥文庫 全8巻 一冊約 600 円

科目名 Course Title	社会の認識 [Perceptions of Society]		
講義題目 Subtitle	エスノグラフィーで世界を学ぶ		
責任教員 Instructor	小田 博志 [Hiroshi ODA] (文学研究科)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type	全学教育科目(主題別科目)		
開講年度 Year	2011	時間割番号 Course Number	000178
開講学期 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class	講義	対象年次 Year of Eligible Students	1～1
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
補足事項 Other Information			
キーワード Key Words エスノグラフィー、人類、文化、生活、豊かさ			
授業の目標 Course Objectives エスノグラフィーとは、人びとが生きる現場を理解するための研究方法である。 人類(ヒト)は約 20 万年前にアフリカ大陸で発生し、地球上に広がっていく過程で、各地の環境に適応しながら、多様な生活と文化のあり方を生み出していった。エスノグラフィー的な調査によってその点がこれまで具体的に明らかにされている。 この授業の目標は、人類の生活と文化の「豊かさ」を認識する視点を身につけることであり、そのためにエスノグラフィーがもつ意味を理解することである。そしてこれからの地球社会において、環境や平和をより大切にするライフスタイルのヒントを学びとることを目指したい。			
到達目標 Course Goals (1)エスノグラフィーという研究方法の特徴と意義、そしてそれと文化人類学、民俗学など関連分野との関係を理解する。 (2)人類の歴史とその文化の豊かさとは認識できるようになる。 (3)紹介する事例とその背景を知る。 (4)エスノグラフィー的なものの見方を、身近な事例や自分が興味をもった対象に応用できるようになる。			
授業計画 Course Schedule 担当教員自身と他の研究者が行ってきたエスノグラフィー調査の結果や、ドキュメンタリー映像を用いながら、世界各地の以下のような事例を紹介していく。そして、それらの背景や、関連する学問的解説をそのつど加える。 (1) エスノグラフィーとは (2) 人類とその文化:ヒトの起源、グレートジャーニー、文化人類学 (3) アフリカの社会:よそ者を受け入れる知恵 (4) 地域の豊かさを再発見する:北海道の取り組み (5) アンデスのヒーラー:土地と伝統に根ざした医療 (6) 巡礼と「パワースポット」:四国とスペインの聖地巡礼 (7) 先住民族の文化:アイヌ民族と北海道 (8) 難民を受け入れるドイツのキリスト教会 (9) 平和をつくる音楽の力:南アフリカと中東から (10) 映画と写真が世界を変える:メディアと人間生活との関係 (11) 湖の上で生きる:南米ティティカカ湖の人びと (12) コーヒーとカフェ:「近代」をつくった飲み物 (13) 国境を越える移動:海人の生活スタイル (14) 国境を越える地域社会:長崎県対馬でよみがえる朝鮮通信使の記憶			
準備学習（予習・復習）等の内容と分量 Homework 各回の授業内容について授業終了後自分なりに調べる。 次回の授業内容について基本的な情報を調べてくる。			
成績評価の基準と方法 Grading System 2 回の中間レポートと期末レポートによって成績を評価する。 これら 3 つのレポート全ての提出が単位を得るための前提である。期末レポート 50%、2 つの中間レポート合わせて 50%の割合で評価を行なう。 レポートでは、自分の力で(1)問いを立てること、(2)調べること、(3)考察することが求められ、これら 3 点が成績評価の際に重視される。 成績の段階は、次のような基準で評価をする。 授業内容を理解しながら、特に独創的なレポートを執筆した者に「秀」 授業内容を踏まえて、ある程度独自の考察をした者に「優」			

授業内容をよく理解した者に「良」
レポートとしての形式を満たすことはできた者に「可」
レポートを提出しなかった者、レポートの形式を満たせなかった者に「不可」

テキスト・教科書 Textbooks

講義指定図書 Reading List

エスノグラフィー入門／小田博志:春秋社, 2010

参照ホームページ Websites

小田博志研究室:<http://www13.ocn.ne.jp/~hoda/>, ブログ:<http://odahiroshi.blogzine.jp/webessay/>

備考 Additional Information

授業で使ったスライドの文字情報や連絡事項は、上記参照ホームページ「小田博志研究室」に随時掲載する予定である。

科目名 Course Title	芸術と文学 [Arts and Literatures]		
講義題目 Subtitle	ピアノ音楽の楽しみ・魅力		
責任教員 Instructor	渡辺 健二 [Kenji WATANABE] (東京芸術大学)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type	全学教育科目(主題別科目)		
開講年度 Year	2011	時間割番号 Course Number	000169
開講学期 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class	講義	対象年次 Year of Eligible Students	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	基礎 1-52 組		
補足事項 Other Information			
キーワード Key Words			
ピアノ、ピアノ音楽			
授業の目標 Course Objectives			
ピアノはどんな楽器か、どんな歴史を持っているのか、どんな風に弾くのか、社会や他の芸術とどの様に関わっているのか等を探ることにより、ピアノ音楽の楽しみ・魅力に迫る。			
到達目標 Course Goals			
1. ピアノとピアノ音楽、或いはクラシック音楽全般から思わぬ魅力を見つけ出すこと。そして、自分でも気付いていない自分を見つけること。 2. 音楽表現や個人の感性の多様性について様々な演奏と解釈を通して認識すること。			
授業計画 Course Schedule			
8月22日(月)ー24日(水)に、情報教育館3階スタジオ型多目的中講義室で行う。(詳細は6月頃掲示する。)			
授業計画			
第1日:主に音楽史を中心とした講義			
第2日:主に鍵盤楽器を中心とした(北大博物館のチェンバロ見学も予定)講義, ミニレッスン			
第3日:オペラDVD鑑賞, ミニレッスン, ミニコンサート			
授業内容			
以下の内容を3日間に適宜振り分け講義する。			
1. ピアノの歴史 (1)チェンバロから現代のピアノまで (2)調律の歴史 (3)社会的背景			
2. 社会的背景と音楽内容の関係 (1)社会システムと音楽形式 (2)封建社会か絶対王政か (3)音楽様式の変遷 (4)音楽受容の変遷			
3. 他芸術と音楽の関係 (1)文学と音楽 (2)絵画と音楽			
4. ピアノの特徴 (1)楽器の特徴 (2)音の特徴			
5. ピアノの弾き方 (1)楽器との関係(fortepiano と現代のピアノ) (2)時代の好み(演奏にも流行がある)			
6. 演奏会の歴史:バロックから現代まで			
7. ピアニストの日常			
8. 演奏会へ向かっての準備			
9. 教養は演奏を変えるか			
10. ミニレッスン(希望者に簡単な曲のミニレッスン。注1)			
11. ミニコンサート(初日の朝と最終日午後)			
注1 ミニレッスン: レッスンといっても、いわゆるレッスンではありません。演奏を聴く方、弾く方、それぞれがどんなイメージを持つかをあぶり出していき、それが一致していない場合には、弾く方のイメージをより正確に伝えるにはどのようなことが出来るかについてアドバイスしながら、音楽の認識ひいては各人それぞれの感性の違いについて意識を高めていくものです。 今まで、ミニレッスンで弾いた人は全員「弾いて良かった!」と感想を述べてくれました。この講義で一番面白い部分という感想もあります。			

曲の難易度は問いません。一応クラシックの曲を考えていますが、若干はみ出すことは問題ありません。講義の最初にアンケートの形で演奏希望曲を書いてもらいますので、気楽に参加してください。

準備学習（予習・復習）等の内容と分量 Homework

* 各日最後のレポートに相応の時間を必要とする。ミニレッスンに参加する学生はその準備も必要となる。

* 以下の参考図書は講義指定図書にも指定されていますが、受講に当たって読んでおくことが前提条件になってはいません。参考のために挙げておきます。

参考図書:

増補改訂版 はじめての音楽史 古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで / 久保田慶一 [ほか]: 音楽之友社, ISBN:9784276110168

アナリーゼで解き明かす 新 名曲が語る音楽史 グレゴリオ聖歌からポピュラー音楽まで / 田村和紀夫 : 音楽之友社, 2008, ISBN:9784276110151

名曲が語る音楽史 : アナリーゼで解き明かす : グレゴリオ聖歌からボブ・ディランまで / 田村和紀夫 : 音楽之友社, 2000, ISBN:4276110122

カラー図解 ピアノの歴史 / 小倉貴久子: 河出書房新社, 2009, ISBN:9784309270869

音楽史 17 の視座: 音楽と思想・芸術・社会を解く: 古代ギリシャから小室哲哉まで / 田村和紀夫, 鳴海史生: 音楽之友社, 1998, ISBN:4276110114

成績評価の基準と方法 Grading System

毎日提出してもらったA4用紙1枚分のレポート(授業で感じたことを中心とする), 及び, 授業への積極的参加の状況などを考慮して評価。開講時期の関係で, この授業の成績は, 9月の進級・卒業判定等には算入されない。

テキスト・教科書 Textbooks

講義指定図書 Reading List

増補改訂版 はじめての音楽史 古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで / 久保田慶一 [ほか]: 音楽之友社

アナリーゼで解き明かす 新 名曲が語る音楽史 グレゴリオ聖歌からポピュラー音楽まで / 田村和紀夫: 音楽之友社, 2008

名曲が語る音楽史 : アナリーゼで解き明かす : グレゴリオ聖歌からボブ・ディランまで / 田村和紀夫: 音楽之友社, 2000

カラー図解 ピアノの歴史 / 小倉貴久子: 河出書房新社, 2009

音楽史 17 の視座: 音楽と思想・芸術・社会を解く: 古代ギリシャから小室哲哉まで / 田村和紀夫, 鳴海史生: 音楽之友社, 1998

参照ホームページ Websites

備考 Additional Information

科目名 Course Title	芸術と文学 [Arts and Literatures]		
講義題目 Subtitle	西洋文学王道ツアー		
責任教員 Instructor	高橋 吉文 [Yoshifumi TAKAHASHI] (メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type	全学教育科目(主題別科目)		
開講年度 Year	2011	時間割番号 Course Number	002112
開講学期 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class	講義	対象年次 Year of Eligible Students	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	基礎 1-52 組		
補足事項 Other Information			
キーワード Key Words			
西洋文学の王道、地獄めぐり、V 字プロセス、現代のゲーム等の源、娯楽の宝庫、読書労働の蟹工船的強制、ホメロス、ダンテ、アリオスト			
授業の目標 Course Objectives			
奈落をのぞきそれとの葛藤を明確な形にして、萎えそうになる人々の弱き精神をささえてきた西洋文学の王道は、きやあこわーい、たすけてえー、あれえーのホラー的地獄めぐり(V 字プロセス)につきる。本講義は、その恐怖と愉悦の宝庫である大傑作叙事詩を古代のホメロスから散策し、不動の母型回路(文化のマトリックス)の持続と変遷とを瞥見する。大傑作を実際に読むことを授業第一の、そして文学というものものの戦慄の仕掛けや、危機意識の極みと娯楽の極みとが一致する文学の不思議に開眼するを、授業第二の目標とする。			
到達目標 Course Goals			
ホメロス、ヴェルギリウス、ダンテ、ハルトマン・フォン・アウエ、アリオスト等の西洋の大傑作叙事詩を(翻訳で)実際に読破しうること身を付ける。 生きていくにおいて読書力の有無は生命線である。でも、読書はひどく苦手、文学だめえ、西洋文学古典なんてろんがあーい？とところがどっこい、読み方には楽しいこつがあり、ゲーム等の現代娯楽とは西洋古典のぱくりであることがわかれば、大古典は血湧き肉躍るおともだちとなる。			
授業計画 Course Schedule			
紀元前8世紀のホメロスからルネッサンス 16 世紀頃の大娯楽詩人アリオストまでの代表的な叙事詩をいくつかとりあげる。 講義では、 1)西洋文学(叙事詩)の大傑作をまず抜粋で味わい、そのからくりをのぞき見する。 受講者は、その抜粋を交代で朗読、質疑応答等あれこれ行う。 2)必読として指定された長い作品(ホメロス)を、自宅で必ず読破することが強制される。最初は名前がわからず読みにくく、長くて大変に見えるが、慣れると抜群のおもしろさとなる。理不尽に強制され、あれえーたすけてえーを肌で実感する のも、授業の狙いのひとつ。覚悟がいきますぞ。 3)各講義の最後には、その日の講義内容についての考察(ミニ・レポート)を書き、 提出する(コメントして次回に返却する。質問もこれに書くといひ)。 4)数回の講義後、学期で計三回ほど、まとめる平易なレポートを提出する。 5)期末には、レポートを提出する(cf.成績評価の項をみられたし)。			
授業予定を下に記すが、実際の授業進行は、受講者の理解能力にあわせて柔軟に変更する。			
第 一回 導入 講義の説明			
第 二回 グリム童話 冥界くだりとは何ぞよ			
第 三回 ホメロス「オデュッセイア」その1			
第 四回 ホメロス「オデュッセイア」その2			
第 五回 ケルトの航海記その1			
第 六回 ケルトの航海記その2			
第 七回 ホメロス「オデュッセイア」その3			
第 八回 ヴェルギリウス「アエネーイス」その1			
第 九回 ヴェルギリウス「アエネーイス」その2			
第 十回 ハルトマン「イーヴェイン」その1 中世騎士物語			
第十一回 ハルトマン「イーヴェイン」その2 アーサー王物語圏			
第十二回 ダンテ「神曲」その1 地獄篇			
第十三回 ダンテ「神曲」その2 さらにこわああい恐怖の大王			
第十四回 アリオスト「狂えるオルランド」その1 ゲーム・ファン必読			

第十五回 アリオスト「狂えるオランダ」その2 まとめ

準備学習（予習・復習）等の内容と分量 Homework

- 1 指示された教科書（ホメロス『オデュッセイア 上下』岩波文庫他）を学期内に自宅で読了する。分量がある。計8時間ほど。が時間的には余裕があり負担はない。
- 2 講義内で配付され、準備を指示された古典の抜粋を読んでくる。30分ほどで可能
- 3 学期内で3回ほど、まとめや考察課題レポートを提出する。週に30分ほどで可能
- 4 最後の期末レポートは、他の科目同様、時間をかけて執筆されたし
- 5 教科書以外の諸作の読破も強くお勧めするが、しかしその読書は義務ではない。
とはいえ、最後の期末レポートのテーマ選択のため、諸作を読む時間は必要かもしれない。

成績評価の基準と方法 Grading System

- 1 出席、授業参加度、各講義終わりのミニレポート提出（平常点） 25%
 - 2 数回の講義後に計三回提出する平易なまとめのレポート 25%
 - 3 期末に提出するレポート（後に講義内で指定する諸作から好きな作品を選び、論じる） 50%
- 1－3を総合的にみて成績を判定する。

テキスト・教科書 Textbooks

オデュッセイア 上下（岩波文庫）／ホメロス：岩波書店

筑摩書房の世界文学大系 ホメロスの訳はよいが、重くて持ち運びには不便かも。

講義指定図書 Reading List

神曲 地獄篇 煉獄篇 天国篇（河出文庫）の三冊が、まず地獄篇を／ダンテ：河出書房新社

アエネーイス 西洋古典叢書／ヴェルギリウス：京都大学学術出版会

アエネーイス 上下 岩波文庫 絶版か、訳古くさい／ヴェルギリウス：岩波書店

狂えるオランダ 上下／アリオスト：名古屋大学出版会

ハルトマン作品集 絶版／ハルトマン・フォン・アウエ：郁文堂

フランス中世文学集2 愛と剣と／クレチアン・ド・トロワ等：白水社

神曲は恐怖の館めぐりの極致、河出文庫は挿絵が多数 推薦

他の諸作は高価か絶版状態、図書館で。特にオランダは大変に高価、北大図書館にも、本館と北図書館に各一部ずつのみ 早い者勝ち

参照ホームページ Websites

備考 Additional Information

科目名 Course Title	科学・技術の世界 [The World of Science and Technology]		
講義題目 Subtitle	ゼロからはじめる「科学力」養成講座1 (自然科学1)		
責任教員 Instructor	鈴木 久男 [Hisao SUZUKI] (大学院理学研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type	全学教育科目(主題別科目)		
開講年度 Year	2011	時間割番号 Course Number	000215
開講学期 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class	講義	対象年次 Year of Eligible Students	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	基礎 1-52 組		
補足事項 Other Information			
キーワード Key Words			
サイエンス、自然科学			
授業の目標 Course Objectives			
理系や文系に関係なく、科学リテラシー確立のためのコースであり、科学者になるためのコースではありません。このコースでは、主に物理と化学を学び、力と物質の法則について理解しましょう。 また社会問題などにあらわれる地球温暖化や放射性廃棄物の問題は、人間の決めた分野で言うと、物理、化学、生物、地球物理にまたがっています。このため、これらの問題を議論するときには総合的な科学的知識が必要となります。そうした総合的な知識を得るためには、総合的なサイエンスのコースが最も適しています。このコースでは自然科学1および自然科学2で自然科学のすべてを概観できるようになっています。またこれにより自然界の構造的理解が明確にできるようになるでしょう。予備とする基本的な知識も必要ありませんので文系でも安心して受講できます。また、理系学生でもサイエンス全般にわたっての理解や、サイエンスとは何かを知っておくことは重要です。このコースでは、サイエンスに対しての知識と、大局的な理解を目指します。 主に、物理と化学の内容を理解し、サイエンスの本質に迫ります。 また授業中に皆さんに解答用のリモコンをお配りしますので、授業途中に出される問題やアンケートに答えてもらいます。クイズ番組の解答者になったつもりで授業を楽しんでください。毎回ランキングで優秀解答者は景品がもらえます。易しい問題だけでなく、理系の優秀者でも難しい問題も混ぜますので、景品をもらうのは優秀さよりも運が重要になるかもしれません。 授業計画は以下の通りです。決してトピックス的な授業ではなく、重要なサイエンスの知識を網羅しますので、一緒に人類の叡智を楽しみましょう。 この授業は、アメリカでその重要性が認識され、現在広く行われている統合的科学授業に基づいています。日本では、このコースが最初の試みとなりますが、世界標準の内容に基づきますので安心して受講してください。			
到達目標 Course Goals			
1. 将来の仕事に役立つ科学的知識を得ること 2. 放射性廃棄物や環境問題、遺伝子組み換え食品や食品照射などの科学に関係する社会問題に関して自分で判断できるだけの科学的知識を持つこと 3. 将来自分の子供に科学を教えられるようになること 4. 人間の叡智と科学の楽しみを知り、自然科学的世界観を構築すること			
サイエンスとして重要な概念は次の事柄です。 1. まめ知識の集まりではなく、サイエンスの構造的理解が重要です。 2. サイエнтиストにも焦点をあて、その頃の常識をどのように変えて行ったかを理解し、現在から未来に至る過程の参考にすること。 3. 物事を懐疑的に見て、疑問を持ち、好奇心を持つこと。			
授業計画 Course Schedule			
1. 科学とは何かと科学的方法 2. 宇宙の秩序と天空、地上の力学 3. ニュートンの運動の法則と万有引力 4. エネルギーと熱 5. 熱力学の法則とエントロピー 6. 電気と磁気 7. 波と電磁波			

8. 光の性質と相対性理論
9. 原子とは何か
10. 量子力学と周期表
11. 化学とは何か、炭素の化学
12. 物質の相転移と化学反応
13. 物質の性質と半導体、エレクトロニクス
14. 放射性崩壊と核分裂、原子力と核融合
15. 物質の究極の構造

準備学習（予習・復習）等の内容と分量 Homework

毎回、授業終了後、内容についてのレポートを次の回までにウェブから提出することと、ウェブで行われる択一方式のクイズ(20問)に答えていただきます。クイズは3回まで挑戦可能で、最高点が成績に反映されます。

成績評価の基準と方法 Grading System

毎回のレポートとウェブ上で行われる20問の問題解答、また最終レポートにより総合的に判断します。ウェブでの問題は3回まで挑戦可能で、最高得点が評価に反映されます。文系と理系の学生は区別して評価し、それぞれ標準的な分布になるように相対評価します。毎回のレポートと小テスト、最終レポートの成績への比率は1:1:1です。

テキスト・教科書 Textbooks

テキストは、コースマネジメントシステムを用いて、pdfファイルとして配布します。フルカラーですので、印刷すると印刷代がかかります。そのため、できるだけ画面で読むことをお勧めします。

講義指定図書 Reading List

参照ホームページ Websites

<http://cms.sci.hokudai.ac.jp/>

備考 Additional Information

コースマネジメントシステムを利用して、皆さんのコストゼロを目指します。

科目名 Course Title	英語 I [English I]		
講義題目 Subtitle			
責任教員 Instructor	カイリ マーティン [Martin Kylie Anne] (メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type	全学教育科目(外国語科目)		
開講年度 Year	2011	時間割番号 Course Number	000264
開講学期 Semester	1 学期	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class	講義	対象年次 Year of Eligible Students	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	英語 I 36 組		
補足事項 Other Information	基礎 22-27 組		
キーワード Key Words			
English grammar; pronunciation; speaking			
授業の目標 Course Objectives			
The purpose of this course is to help students further develop their English language skills to better express and analyse their thoughts and attitudes in the medium of English. Students will be exposed to a diverse range of conversational and written situations and will be encouraged to continually practise and develop their spoken and written English in class. There will be a particular focus on 1) pronunciation, 2) paragraph writing, and 3) oral performance.			
到達目標 Course Goals			
The main learning objectives include: 1. developing an understanding of and competency in producing appropriate English sounds; 2. developing an understanding of the intonation, stress and rhythm of the English language; 3. building vocabulary knowledge and practising its application in class; 4. developing and demonstrating an understanding of the basic structure of essay writing; 5. developing and demonstrating presentation skills, including a short final presentation in class.			
授業計画 Course Schedule			
Weekly lesson topics: Week 1 – Orientation lecture: introduction to English writing and speaking across and within discipline-specific discourses Spoken language features: Week 2 – Introduction to the English sound system Week 3 – Introduction to the prosodic characteristics of English Week 4 – Phonological changes in English Week 5 – Information, reality and belief Week 6 – Mood, emotion and attitude Written language features: Week 7 – Basic characteristics of written discourse in English Week 8 – Basic characteristics of a paragraph Week 9 – Introduction to styles of writing and discourse structures Week 10 – Effective writing and use of source information Week 11 – Comparing and contrasting oral and written texts Oral presentations: Week 12 – Presenting in English Week 13 – Examples of how to give a good presentation Week 14 – Oral presentations Week 15 – Oral presentations			

準備学習（予習・復習）等の内容と分量 Homework

Students are required to prepare and review each lesson. In addition to the assignments the lecturer gives, they are expected to carry out work on their own.

Students will be encouraged to practise using the English learnt during the weekly classes.

成績評価の基準と方法 Grading System

The assessment criteria for this course are provided below. These will form the basis of your final grade.

Participation (30%)

All students should try their best to use English in class at all times. Students who actively participate in class activities will receive higher marks.

Quizzes (20%)

At the beginning of each class, a short quiz will be given to help students test their knowledge and understanding. These will be counted towards final grades.

Weekly exercises (20%)

There will be short weekly exercise tasks based on the materials studied in class.

Oral presentation (30%)

At the end of the semester, students will be asked to give an oral presentation. Students should also be prepared to answer questions from fellow students and the instructor in relation to their topic following their presentation.

More detailed information about this assessment task will be provided in class.

テキスト・教科書 Textbooks

Natural English, Pre-Intermediate Student's Book／Gairns, Ruth and Redman, Stuart :Oxford University Press, 2003

講義指定図書 Reading List**参照ホームページ Websites****備考 Additional Information**

科目名 Course Title	英語Ⅲ [English III]		
講義題目 Subtitle	中級:リスニング		
責任教員 Instructor	河合 剛 [Goh KAWAI] (メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type	全学教育科目(外国語科目)		
開講年度 Year	2011	時間割番号 Course Number	002164
開講学期 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class	講義	対象年次 Year of Eligible Students	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	基礎 6-15 組		
補足事項 Other Information	中級-10		

キーワード Key Words

wholly English, 英語漬け, content over accuracy, 文法の正確さよりも情報の的確さ

授業の目標 Course Objectives

- ◆ This section explains who this course is for.
- ◆ ****IMPORTANT!**** Before registering for this course, read my previous students' comments at <http://goh.kawai.com/>
<http://goh.cll.hokudai.ac.jp/>
- ◆ ****IMPORTANT!**** This course is mostly in English. During class, we will talk mostly in English. You may ask for help in Japanese.
- ◆ If you want to speak the English language but often make mistakes in choosing words and making sentences, then this course may be for you. This course is for students who have (or want to have) outgoing, extroverted personalities.
- ◆ This course emphasizes helping people by answering their questions. Being friendly and helpful is more important than speaking correctly.
- ◆ To succeed in this course, you need some English language skills. If you have trouble understanding this paragraph, then you will need to work extra-hard. During class, I will talk mostly in English. You may ask for help in Japanese.
- ◆ You will learn new words. You will talk a lot. You will feel confident.

到達目標 Course Goals

- ◆ This section explains what you will learn in this course.
- ◆ After finishing this course, you will be able to:
 - * Meet people, shake hands, introduce yourself, and ask some questions.
 - * Give walking directions on or near campus, with or without using a map.
 - * Suggest and explain sightseeing spots on or near campus.
- ◆ Depending on how quickly we progress, after finishing this course, you may also be able to:
 - * Explain the names, ingredients, cooking methods, and eating techniques of common Japanese food and drink.
 - * Explain restaurant menus written in Japanese.
 - * Explain how to order food, pay, eat, and bus dishes at the campus cafeteria. ("Bus" means bringing plates and trays back to the kitchen.)

授業計画 Course Schedule

- ◆ This section explains what you will do in class each week.
- ◆ 1st class: You will learn (a) this course's design, objectives, and method, (b) how you will participate in class, (c) why, how, and when to do

assignments, (d) how you will be graded, and (e) who your instructor and conversation partners are. You will receive your first assignment, due by the 2nd class. I will speak Japanese during the 1st class, and mostly English the rest of the semester.

◆ 2nd class: You will learn (a) how to find out what people want to know when they ask questions, and (b) how to choose and arrange the information you will give in your answers. You will practice specific tasks, such as giving walking directions on campus. Each week, you will study new words and expressions. These must be memorized. I will give you handouts with example phrases, which you will use at home to prepare sentences for the next class. As the tasks become complex, you will use more words to describe exactly what you want to say, and your conversations will become longer.

◆ 3rd-14th classes: The class format is the same as the 2nd class. You and a conversation partner will ask questions and answer them. When we become confident with one task (such as giving walking directions on campus), we will continue with another (such as explaining sightseeing spots on campus).

◆ 15th-16th classes: You will review and demonstrate long conversations covering various topics. Your final exam will be partly oral and partly written.

準備学習（予習・復習）等の内容と分量 Homework

◆ This section explains what you will do outside of class each week.

◆ Each week, you will receive assignments in class. At home, you will study new words and expressions, and prepare sentences for the next class. You will bring the assignments to class for me to grade. You must prepare and memorize the new words and expressions so that you can use them in class. You may study with friends outside of class.

◆ The following paragraph applies to all language courses including this course:

積極的かつ主体的な準備学習（予習・復習）が求められる。準備学習への取り組み方全般については、学期はじめに担当教員から説明があるほか、各回の授業で求められる準備学習の具体的内容については、学期中随時教員から指示がある。また履修者が自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組むことも強く期待される。準備学習を十分に行わなければ、身につけるべき内容を消化できず、単位も取得できなくなる可能性があるため、真剣かつ計画的に取り組んでほしい。

成績評価の基準と方法 Grading System

◆ This section explains what you will do to receive grades and credit.

◆ Your grades will be determined primarily by how well you answer questions, and secondarily by how well you prepare for class.

◆ The key criterion is "Did you satisfy the person who asked the question?" Your sentences do not need to be perfect English, but the information in them must be accurate and complete. For instance, if somebody asks "What is this sushi made of?" you may not answer "It's a kind of fish" because although the sentence is in perfect English, it does not give all the information being asked for. You may say "Tuna", which is excellent information, although it is not good English.

◆ During class, you will grade your conversation partners, and they will grade you. Some conversation partners are students, others are teaching assistants or instructors. Conversation points will form 60 percent of your grade. Some classes, such as classes with long conversations, are worth more points. If you are absent, you receive no points for that class period.

◆ Your assignments will be graded. Assignment points will form 30 percent of your grade. I will not accept late assignments.

◆ Your final exam will form 10 percent of your grade. You must take the final. If you miss the final, you must see me for an interview. If you miss both the final and the make-up interview, you will NOT receive course credit.

◆ Letter grades will be given in 13-point intervals as follows: 100 >= "shuu" >= 87, 86 >= "yuu" >= 74, 73 >= "ryou" >= 61, 60 >= "ka" >= 48, 47 >= "fuka" >= 0.

◆ ****IMPORTANT!**** You must take the final exam. No matter how high your scores, if you miss the final, you fail the course.

テキスト・教科書 Textbooks

There are no textbooks you need to buy. I will provide you with handouts.

講義指定図書 Reading List

There are no references you need to buy. I will provide you with handouts.

参照ホームページ Websites

<http://goh.kawai.com/>, <http://goh.cll.hokudai.ac.jp/>

備考 Additional Information

◆ The following paragraph applies to all intermediate (中級) English language courses including this course:

この授業は英語中級者(目安として TOEFL-ITP 試験の成績が 420 点以上 530 点未満)を主な対象者とする。

科目名 Course Title	英語演習 [English Seminar]		
講義題目 Subtitle	中級:First step making an attractive oral presentation in English		
責任教員 Instructor	ガルシア マルティエーノ ファイナ [Fayna Maria Garcia Martin] (大学院先端生命科学研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type	全学教育科目(外国語科目)		
開講年度 Year	2011	時間割番号 Course Number	000460
開講学期 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class	演習	対象年次 Year of Eligible Students	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	基礎 1-52 組		
補足事項 Other Information	中級 59		

キーワード Key Words

English oral communication; visual aids software; public speaking; presentations listeners

授業の目標 Course Objectives

Welcome to learn how to make oral presentations! The purpose of the course is to explore yourself to theory and practice on oral presentations. Further, as the course is done in English, the student will be able to improve and feel confident on English language.

At the end of the course, the students will learn how to make oral presentations or discussions for some general situation for professional future, and especially in scientific talks. They will learn how to structure a presentation, get the attention of the audience and feel confident during the delivery. Also, it is the purpose of the course to become more effective listeners and develop critical thinking. Multi-media are used to facilitate students the comprehension of the subject and analyze types of presentations.

Through this course, students will be encouraged to learn oral presentation skills step by step.

到達目標 Course Goals

The main learning goals are:

1. Developing skills for creating oral presentations.
2. Planning, designing, organizing and delivering presentations.
3. Developing the ability to talk in public using English language.
4. Setting your own style for presentations.
5. Being familiar with the use of visual aids software as power point or keynote.
6. Enlarging communication competence and confidence. Controlling anxiety.
7. Analyzing audience attitudes and needs.
8. Developing critical thinking and becoming effective listeners.

授業計画 Course Schedule

Week 1 – INTRODUCTION. Importance of presentations.

Week 2 – LISTENING AND CRITIQUING. Supportive and effective listeners. Analyze presentations.

Week 3 – PREPARING PRESENTATIONS. Structure and organization.

Week 4 – VISUAL AIDS. Create slides.

Week 5 – DEFINE THE JOURNEY. DEFINE THE AUDITION.

Week 6 – IMPORTANCE OF THE BODY LANGUAGE.

Week 7 – DELIVERY. MAKE YOUR PRESENTATION SPARKLING. Choose words, use humor effective and other guidelines.

Week 8 – TIPS AND TROUBLESHOOTING.

Week 9 – TYPES OF ORAL PRESENTATIONS.

Week 10 – SCIENTIST PRESENTATIONS. INTERNATIONAL PRESENTATIONS.

Week 11 – SCIENTIST POSTERS.

Week 12 – DISCUSSIONS.

Week 13 – ROUND TABLES.

Week 14 – DIFFERENT STYLES. Inspiration is everywhere.

Week 15 – CONCLUSIONS AND SUMMARY.

準備学習（予習・復習）等の内容と分量 Homework

Oral presentations skills can only be learnt by practicing, so students are required to prepare some speeches. Students are required to work as a team in some lessons.

成績評価の基準と方法 Grading System

The score of the course is based on continuous evaluation. The following tasks and scores are a tentative of the continuous evaluation of this course.

Class participation and companionship (20 %). All students are highly encouraged to contribute in class and respect to other classmates.

Chapter quizzes (10 %). At the beginning of each class a short quiz of the previous lessons will be given to the students.

Speaking activities (50 %). In this assignment, student will have the chance to communicate in public on different situations.

Critique assignment, listening and referee (12 %). Listening to classmates is as important as making your own speech. Students will be asked to give written or verbal constructive comments of multi media presentations and classmates' speeches.

No absentees (3 %). Students with any absence will have higher score

Peer final evaluation (5 %). This score will be based on classmates' evaluation

テキスト・教科書 Textbooks

The Craft of Scientific Presentations／Michael Alley:Springer, 2003

Resonate／Nancy Duarte:Wiley, 2010

It is not required to buy text books

講義指定図書 Reading List

参照ホームページ Websites

<http://academicearth.org/>, <http://mitworld.mit.edu/browse>, <http://www.ted.com/talks>

備考 Additional Information

Policies

- Cell phones are totally forbidden.
- Use of computers for non-class purpose is totally forbidden.
- It is not permitted to sleep during class hours and especially during other student's speech.
- Attendance is expected and it will be checked diary, students will be permitted to only three unexcused absences.
- Class participation is important for getting personal skills on presentations and self-confidence.
- Speeches must be originals. Plagiarism is not permitted.

科目名 Course Title	外国語特別演習 [Special Seminar in Foreign Languages]		
講義題目 Subtitle	フィンランド語 入門:be 動詞だけで多彩な表現を		
責任教員 Instructor	水本 秀明 [Hideaki MIZUMOTO] (言語文化部)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type	全学教育科目(外国語演習)		
開講年度 Year	2011	時間割番号 Course Number	000541
開講学期 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class	演習	対象年次 Year of Eligible Students	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	基礎 1-52 組		
補足事項 Other Information			
キーワード Key Words			
フィンランド語、入門、コミュニケーション			
授業の目標 Course Objectives			
①フィンランド語でのコミュニケーション上最低限必要な、言葉のしくみとルールについて学ぶ。フィンランド語は名詞の性や冠詞がないため、これらのしくみやルールは日本語との類似点を感じさせるものも多いと考えられる。			
②日本語や、外国語として多くの学生が既習・履修している英・独・仏・露語等との差異や共通点に目を向ける。			
③言語の背景にある文化についての理解を深める。			
到達目標 Course Goals			
be 動詞を含む基礎語彙(300語程度)を用いて、あいさつ、自己紹介、身の回りの話題(曜日・時間など)についての簡単な受け答えができるようになる。具体的には、			
文法レベル:			
①3回目授業終了時まで正しい発音を身につけ、意味が分からなくとも、どんな単語もフィンランド人に通じる発音で読めるようになる(フィンランド語は基本的に1アルファベットが1音素のみを表し、単語のアクセントも常に第一音節にあるので発音の習得が比較的容易)			
②音声面での根幹にある母音調和・子音階程交替のシステムについて、基礎的な知識を身につける			
③数詞の使用により個数、時間、値段などを表現できるようになる			
④簡単な存在文(ーにいる、ある)と所有文(ーを持っている、持っていない)を理解・運用できるようになる			
表現レベル:			
担当教員およびフィンランド人ゲスト(不定期に招聘予定)の問いかけに対し、既習の文法・語彙レベルの中で、積極的かつスムーズに答えられるようになる			
授業計画 Course Schedule			
前期(第1回～5回)			
①正しい発音の習得			
②あいさつと自己紹介の方法			
③olla 動詞(英語の be 動詞に相当)を使ってA=Bの構文に慣れる			
中期(第6回～10回)			
④数詞の習得			
⑤数詞を活用して、時間・個数について受け答えすることができる			
⑥olla 動詞を使った存在文(「ーの中にある(いる)」と「ーの上にある(いる)」)に慣れる			
後期(第11回以降)			
⑦olla 動詞を使った所有文(フィンランド語は「持っている／いない」も be 動詞を使って表現する)に慣れる			
⑧語彙の充実			
授業は後述のテキストを主教材に、その他フィンランド語の歌、漫画、各種視聴覚教材等を使用予定です。毎回授業の1／4程度は前回の復習、1／4程度をフィンランド文化にスポットを当てた中身(例えばフィンランド人の名前、サウナ、食文化、フィンランド音楽、「フィンランド語はどこから来たか」などのトピック)に充てます。			
毎回授業の終わりに感想・要望・質問等が記入できるシートに記入してもらいますので、活発なフィードバックを期待しています。また、フィンランド人ゲストが来訪の際は、習得したことを早速使ってコミュニケーションを図ってみましょう。習ったことをすぐに試してみる「勇気」や積極性は高い評価の対象になります。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework			
受講生の皆さんにはとりたてて予習の義務を課しませんが、授業に集中し、復習(特に声に出してフィンランド語を読んでもらうこと)に時間			

を費やすことを心がけてください。その際は、使用テキストの内容を吹き込んだCDを配布する予定なので大いに活用してください。平常時は最低週2時間、小テスト・レポート提出前には週4〜5時間程度は復習・準備に時間をかけてほしいと思います。

成績評価の基準と方法 Grading System

①授業参加度40%、②到達目標の達成度を測る小テスト・レポートの成績40%、③全体としての達成度を測る最終試験(受講者が比較的小さい場合は口頭、多い場合はレポートを予定)20%を総合して評価します。なお①〜③達成度のバランスが極端に悪い場合、「優」以上の成績は難しいと考えてください。

テキスト・教科書 Textbooks

おはようフィンランド／Huomenta Suomi

Huomenta Suomi「おはようフィンランド」を主教材として使用しますが、絶版のため必要部分をプリントで配布します。

講義指定図書 Reading List

旅の指さし会話帳 35 フィンランド／青木エリナ:情報センター出版局, 2002

フィンランド語のしくみ CD つき／吉田欣吾:白水社, 2007

語彙の補充とレポート作成の便宜のために:

青木エリナ「旅の指さし会話帳 35 フィンランド」

フィンランド語とはどんな言葉か、手軽に全体像をつかむために:

吉田欣吾「フィンランド語のしくみ CD つき」

以前は専門的な文法書や「エクスプレス」シリーズしかなかったフィンランド語の文法書の近年の充実振りには目を見張るものがあります。一長一短はありますが、過去4〜5年に刊行されたものであれば、旧来の欠点をそれなりに補い、フィンランド語の基礎文法をほぼ網羅したものがほとんどです。またCD付きの本が多いというのも魅力です。フィンランド語文法に興味のある諸君、履修後も学習を続けたいと考えている諸君には、どれか1冊購入されることをお勧めします。

参照ホームページ Websites

備考 Additional Information

過年度の授業ではテキストを忘れてくる受講者が多いのが気になりました。またテキストを含め配布物が多くなりますので、講義用のファイルを用意して配布物を綴じるようにしてください。

科目名 Course Title	歴:文化人類学 [Anthropology]		
講義題目 Subtitle	人類学と平和 11		
責任教員 Instructor	小田 博志 [Hiroshi ODA] (文学研究科)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type	文学部専門科目		
開講年度 Year	2011	時間割番号 Course Number	004092
開講学期 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class	講義	対象年次 Year of Eligible Students	2～4
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
補足事項 Other Information			
キーワード Key Words 人類学、平和の現場、ポジティブ・ピース、実践としての平和、関係としての平和、平和資源、インフォーマルな平和			
授業の目標 Course Objectives 「平和」について考えるとき、この授業では2つのアプローチをとります。 (1) 巨視的なアプローチ: 人類(ヒト)が約20万年前にアフリカに発生し、地球上に広がっていく長い歩みの中に「平和」を位置づけること。 (2) 現場へのアプローチ: 人びとが実際に活動している「平和の現場」に焦点を当てること。 また「平和」に関して、新しい捉え方を提起します。それは、平和を「他者」との友好な関係をつくっていく積極的な実践として捉え(ポジティブ・ピース、関係としての平和、実践としての平和)、そこで活用される資源に焦点を当て(平和資源)、その担い手として地域住民や一般市民も含める(インフォーマルな平和)という平和観です。 これらの点を、世界各地のさまざまな事例と、人類学や平和学の研究成果と用いて解説していきます。 参加者は、以上の内容に基づいて、「平和」について自分独自の考察ができるようになることを目指します。			
到達目標 Course Goals (1) 授業で取り上げる事例が理解できる。 (2) 授業で用いる理論的枠組みが理解できる。 (3) 平和と人類学との関連を把握する。 (4) 授業内容を踏まえながら、平和について独自の問いを立てて、調べ、分析できるようになる。			
授業計画 Course Schedule 以下のテーマと事例を扱う予定です。(変更の可能性があります。) (1) 人類の旅と「文化」: レイズム対フランス・ボアズ (2) 「平和」を歴史化する: 植民地支配・帝国主義・戦争 (3) 相互扶助とは: 「生存競争」モデルに対するアンチテーゼ (4) 「身の丈」に合った経済: 平和な経済とは? (5) 平和のインフラ: アウシュヴィッツの交流センター (6) 歓待する: 現代ドイツの教会アジール (7) 語ること―聴くこと: ホロコースト生存者とドイツ人との「和解」 (8) 敵の人間化: ある兵士の気づき (9) 世界の基礎にある平和: ガンディーのサティヤーグラハ (10) 植民地主義の記憶: アフリカとカリブ海からの声 (11) 先住民族の復権: アイヌ民族の文化 (12) 平和資源として映画 (13) 平和資源としてのアート (14) 平和の記憶: よみがえる朝鮮通信使 (15) 足もとの平和: 北海道の民衆史掘りおこし運動			
準備学習（予習・復習）等の内容と分量 Homework 次回の授業内容について基本的な情報を調べてくる。 授業内容に関係のある文献を読んで理解を深める。			
成績評価の基準と方法 Grading System 授業期間中に課す2回の中間レポートと、授業終了後に提出する期末レポートによって成績を付けます。中間レポート2つで50%、期末レポート50%の割合で評価します。 これら3つのレポート全ての提出が、単位取得の前提です。 評価基準は以下の通りです。			

授業内容を理解し、その上で際立って独創的なレポートを書いた者に「秀」
授業内容を踏まえて独自の設問と分析ができた者に「優」
授業内容の理解にある程度達した者に「良」
レポートの形式を踏まえることならできた者に「可」
レポートを提出しなかった者、形式を守れなかった者に「不可」

テキスト・教科書 Textbooks

講義指定図書 Reading List

授業中に指示します。

参照ホームページ Websites

小田博志研究室:<http://www13.ocn.ne.jp/~hoda/>, ブログ:<http://odahiroshi.blogzine.jp/webessay/>

備考 Additional Information

授業で使ったスライドの文字情報や連絡事項は、上記参照ホームページ「小田博志研究室」に随時掲載する予定です。

科目名 Course Title	演習 I [Seminar I]		
講義題目 Subtitle			
責任教員 Instructor	藤谷 武史 [Takeshi FUJITANI] (大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type	法学部専門科目		
開講年度 Year	2011	時間割番号 Course Number	009178
開講学期 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class	演習	対象年次 Year of Eligible Students	2～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
補足事項 Other Information			
キーワード Key Words			
税制 租税の公平 分配的正義(distributive justice)			
授業の目標 Course Objectives			
昨今の厳しい経済情勢・財政状況の下で、税制改革が常に直面する問いは、「必要な税収をいかに公平な形で確保するか」ということである。現実の政治過程が理念よりも利害関係に支配されているとしてもなお、およそ「公平でない」とされた税制改革案は、必要な支持を獲得できず、実現もされない。もちろん、われわれは「公平」の意味が一義的に決まりそうにない、ということも知っている。それでは、われわれはあるべき租税制度を構想する上で、どのように思考し議論すればよいのであろうか。これは法学部生が取り組むにふさわしい法理論的な問題であると同時に、優れて実践的な問題でもある。 この演習では、租税法における「租税の公平」と法哲学における「分配的正義」に関する基本文献を読み、哲学的・道徳的な議論と実定法政策論の性格の違いを学び、両者の架橋の可能性を考えることを通じて、上記の問題へのアプローチを試みる。			
到達目標 Course Goals			
1. 現代の租税法における「租税の公平」に関する基本的な議論状況を理解する。 2. 法哲学における「分配的正義」に関する議論を概観し、基礎的な理解を得る。 3. 1と2の比較を通じて、実定法制度を前提とする議論と、法哲学的な議論の違いを学び、実定法学と基礎法学の役割の違いとそれぞれの意義について考える。			
授業計画 Course Schedule			
1. まず、租税法における「租税の公平」に関する基本文献を読み、現代の租税法において「公平」を論じることはどのような意味を持つか、を確認する。実際の租税制度や税制改革案に関する必要な知識については適宜教員が補足説明を与える。(第1回～第3回) 2. 次に、法哲学における「分配的正義」に関する代表的な文献を会読し、正義の問題として、租税制度がいかなる役割を果たすべきであると考えられているか、について理解を深める。(第4回～第12回) 具体的な文献については開講前(9月上旬)に指示するが、おそらく以下のような文献が含まれるであろう。 ・ロナルド・ドゥウォーキン(小林公ほか訳)『平等とは何か』木鐸社、2002 年 ・アマルティア・セン(池本幸生訳)『不平等の再検討』岩波書店、1999 年 ・リーアム・マーフィー・トマス・ネーゲル(伊藤恭彦訳)『税と正義』名古屋大学出版会、2006 年 3. 以上を踏まえて、租税法における「租税の公平」と、法哲学における「分配的正義」を比較し、法哲学的な議論を現実の税制に適用する際の障壁、哲学的な議論が現実の法制度改革に与える示唆、および実定法学における価値概念の意味、について、文献を踏まえつつ議論を行う。(第13回～第15回)			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework			
毎回、事前に指定した邦語文献(1回の目安は30頁)を読み進めるため、全員が予習をして参加することが前提となる。 全ての演習参加者には、1回の報告と1回のコメントの義務が課される。報告者は、指定された文献を読み込み、わからない点については調べて明らかにした上で、内容をレジュメにまとめて要領よく報告する。コメント担当者は、報告者の文献理解に不十分な点があればそれを指摘した上で、内容について自分が考えたことを述べる。			
成績評価の基準と方法 Grading System			
報告40%、コメント30%、平常点(出席・議論への貢献度)30%で評価する。			
テキスト・教科書 Textbooks			
講義指定図書 Reading List			
平等とは何か／ロナルド・ドゥウォーキン:木鐸社, 2002 不平等の再検討／アマルティア・セン:岩波書店, 1999			

税と正義／L・マーフィー＝T・ネーゲル:名古屋大学出版会, 2006

参照ホームページ Websites

備考 Additional Information

演習参加者には、租税法や法哲学の前提知識は全く要求されないが、文献を丹念に読み、積極的に自分の頭で考えようという意欲は要求される。

科目名 Course Title	生理学 I（内分泌, 消化, 血液） [Physiology I (Endocrine,Gastrointestinal and Blood cell Functions)]		
講義題目 Subtitle			
責任教員 Instructor	本間 さと [Sato HONMA] (医学研究科)		
担当教員 Other Instructors	岩永 敏彦(医学研究科), 西出 真也(医学研究科), 山仲 勇二郎(医学研究科)		
科目種別 Course Type	医学科		
開講年度 Year	2011	時間割番号 Course Number	021163
開講学期 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class	講義	対象年次 Year of Eligible Students	3～3
対象学科・クラス Eligible Department/Class	医学科		
補足事項 Other Information			
キーワード Key Words			
内分泌学、環境生理学、代謝、消化吸収			
授業の目標 Course Objectives			
1) 生体の調節系としての内分泌系の構造と機能を理解する。			
2) 消化・吸収のための機能と、生体のエネルギーバランスについて理解する。			
3) 血液の各成分の機能を理解し、血液による生体の恒常性維持機構に関する基礎知識を身につける。			
到達目標 Course Goals			
1)生体機能の調節における内分泌系の役割、ホルモンの定義、化学的特性、合成、分泌、運搬、代謝を説明できる。			
2)内分泌系の階層性支配、フィードバック、リズムを説明できる。			
3)ホルモン作用の原理、受容体との結合、細胞内情報伝達系を説明できる。			
4)視床下部ホルモン、神経内分泌、後葉ホルモンの作用を説明できる。			
5)下垂体門脈系、前葉ホルモン、標的内分泌腺、作用を説明できる。			
6)成長、成長に関するホルモン、作用メカニズムについて説明できる。			
7)Ca 代謝とそれに関与する内分泌系について説明できる。			
8)甲状腺ホルモンの合成、分泌、作用、調節について説明できる。			
9)糖質コルチコイドの合成、分泌、作用、調節について説明できる。			
10)電解質コルチコイドの合成、分泌、作用、調節について説明できる。			
11)膵島ホルモンの合成、分泌、作用、調節について説明できる。			
12)生体における血糖値調節機構を説明できる。			
13)性の分化と性成熟に関する内分泌系について説明できる。			
14)性ホルモンの合成、分泌、作用、調節について説明できる。			
15)性周期、妊娠、分娩のメカニズムについて説明できる。			
16) 食欲を調節する神経・内分泌機構について理解できる。			
17) 消化器系の各臓器における運動機能や消化吸収に関わる反射について説明できる。			
18) 食欲を調節する神経・内分泌機構について理解できる。			
19) 蛋白質・糖質・脂質の消化・吸収メカニズムを説明できる。			
20) ビタミン・電解質・水分の吸収を説明できる。			
21) 血液の構成成分とその機能を説明できる。			
22) 赤血球産生とその調節を説明できる。			
23) 血液粘性、赤血球の変形機能と流体力学的性質を説明できる。			
24) ヘモグロビンの合成・破壊・腸肝循環について説明できる。			
25) 鉄の代謝について説明できる。			
26) 血液凝固系と線溶系について説明できる。			
授業計画 Course Schedule			
1) 内分泌総論:ホルモンの定義			
2) 内分泌総論:内分泌系の調節機構			
3) 内分泌総論:ホルモン作用の原理			
4) 視床下部と下垂体:視床下部ホルモン、神経内分泌、後葉ホルモン			
5) 視床下部と下垂体:視床下部ホルモン、下垂体門脈系、前葉ホルモン			
6) エネルギー代謝:糖質コルチコイド			
7) エネルギー代謝:甲状腺ホルモン			

- 8) エネルギー代謝:インスリン・グルカゴン
- 9) エネルギー代謝:血糖値調節
- 10) 成長と発達:成長ホルモン
- 11) 成長と発達:カルシウム代謝(副甲状腺ホルモン、PTHrP)
- 12) 成長と発達:カルシウム代謝(カルシトニン、ビタミン D)
- 13) 生殖の内分泌:性ホルモンの分泌調節
- 14) 生殖の内分泌:性ホルモンの作用と月経周期
- 15) 生殖の内分泌:妊娠と分娩
- 16) 生物時計の構造と機能
- 17) 生体リズムの機能と睡眠覚醒
- 18) 体温調節
- 19) 温度適応と発熱
- 20) 身体運動とエネルギー代謝
- 21) 食欲と摂食調節に関与する脳内機構
- 22) 食欲と摂食調節に関与する液性メカニズム
- 23) 消化器系の運動:総論
- 24) 消化器系の運動:各論
- 25) 消化管における外分泌
- 26) 消化管ホルモン
- 27) 消化管における吸収:糖質・蛋白質・脂質の吸収
- 28) 消化と吸収:ビタミン・電解質・水分の吸収

準備学習（予習・復習）等の内容と分量 Homework

生理学は生体の機能を理解する科目であり、暗記では学習できない。事前に教科書の該当ページを読んでおくこと。不明な点があれば、講義当日に担当教員に積極的に質問する。また、配布物を熟読の上、不明点をできるだけ早期に解決しておく。

成績評価の基準と方法 Grading System

筆記試験、条件により口答試験を付加

テキスト・教科書 Textbooks

標準生理学／本郷利憲 他:医学書院, 2005

Williams Textbook of Endocrinology／H.M.Kronenberg 他:Saunders, 2007

:南山堂

講義指定図書 Reading List

参照ホームページ Websites

<http://www.endotext.org/>

備考 Additional Information

医学英語の理解のため、内分泌講義のハンドアウトはすべて英文である。

科目名 Course Title	病理学 [Pathology]		
講義題目 Subtitle			
責任教員 Instructor	笠原 正典 [Masanori KASAHARA] (医学研究科)		
担当教員 Other Instructors	田中 伸哉(医学研究科), 外丸 詩野(医学研究科), 西原 広史(医学研究科), 宮武 由甲子(医学研究科), 大塚 紀幸(医学研究科), 谷野 美智枝(医学研究科), 木村 太一(医学研究科), 大場 雄介(医学研究科), 松野 吉宏(北海道大学病院), 石津 明洋, 守内 哲也(遺伝子病制御研究所), 上出 利光(遺伝子病制御研究所)		
科目種別 Course Type	医学科		
開講年度 Year	2011	時間割番号 Course Number	021030
開講学期 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class	講義	対象年次 Year of Eligible Students	3～3
対象学科・クラス Eligible Department/Class	医学科		
補足事項 Other Information			

キーワード Key Words

細胞と組織の基本的病的変化, 疾患の種類と分類, 疾患の病因と病態

授業の目標 Course Objectives

疾病の発症には種々の内的および外的因子が関わっています。これらの因子は細胞や組織の構造や機能を損なうことにより、各臓器の器質的、機能的異常を引き起こし、個体を病的状態へと変化させています。このような疾病の本態を正しく把握するためには、病態を形成するいくつかの基本的変化のカテゴリーを理解する必要があります。さらに、これらの変化に侵された組織や臓器でのそれぞれの組織や臓器に特有の器質的、機能的変化について理解をしなければ、それぞれの疾病のもたらす病態を正しく理解できません。病理学の講義では総論で疾病の成り立ちを基本的病態のカテゴリーに分類し、正しく把握できる基本的考え方を養うとともに、各論では各臓器に発症する種々の疾患について、その形態学的、機能的特徴を学び、疾病を総括的に理解する能力を養います。

到達目標 Course Goals

以下の各項目について、理解し説明する能力を身につけてもらいます。

- 細胞レベルでの傷害の種類と基本的変化を示すことができる。
- 疾病を起こす原因について、内因、外因に分類し、例をあげ説明ができる。
- 疾病の病因について基本的変化のカテゴリーを分子レベルから個体レベルまで理解し、個々の変化について例をあげ説明できる。
- 各臓器での疾患を基本的変化のカテゴリーに基づいて分類し、それぞれの臓器での代表的疾患についてその病因や病態の特徴を説明できる。

授業計画 Course Schedule

総論

- 疾病を起こす病因についての概要を説明します。
- 細胞傷害因子の種類と傷害による細胞の変化、細胞死の分子機構を講義します。
- 細胞の増殖と分化について、その分子機構を講義します。
- 加齢や老化の分子機構やそれに由来する疾患について講義します。
- 環境要因の種類とそれぞれの要因による代表的疾患について講義します。
- 遺伝の基本的概念および遺伝性疾患、遺伝子病について、その病因や疾患の種類、病態を講義します。
- 蛋白質、糖質、脂質、色素、無機質代謝障害の機構とそれぞれに対応する代表的疾患の病因、病態を講義します。
- 免疫やアレルギーの基本的概念とそれらに関連する代表的疾患の病因、病態を講義します。
- 炎症の概念、分類とその経過について講義します。
- 感染性生物の種類やその感染機序、病態を講義します。
- 循環障害の原因や種類、その結果発生する組織傷害について講義します。

各論

- 循環器系の主な疾患についてその原因、病態を講義します。
- 呼吸器系の主な疾患についてその原因、病態を講義します。
- 消化管系の主な疾患についてその原因、病態を講義します。
- 肝・胆・膵の主な疾患についてその原因、病態を講義します。
- 内分泌系の主な疾患についてその原因、病態を講義します。
- 生殖器系の主な疾患についてその原因、病態を講義します。
- 泌尿器系の主な疾患についてその原因、病態を講義します。
- 血液・造血器系の主な疾患についてその原因、病態を講義します。
- 乳腺の主な疾患についてその原因、病態を講義します。
- 皮膚の主な疾患についてその原因、病態を講義します。

11. 神経系の主な疾患についてその原因、病態を講義します。
12. 骨・軟部組織の主な疾患についてその原因、病態を講義します。

準備学習（予習・復習）等の内容と分量 Homework

初回の講義時に講義日時、講義題目、担当教員名を記載した講義予定表を配布します。予習、復習はこの予定表を参照して、適宜、教科書・参考書を用いて行うこと。

成績評価の基準と方法 Grading System

講義担当の分子病理学分野(第一病理)と腫瘍病理学分野(第二病理)がそれぞれ以下の基準に従い評価し、その結果を総合し最終評価とします。

分子病理学分野:出席が3分の2に満たないものは受験資格を与えません。病理学の基本的知識(想起や解釈など)が到達目標に達しているか否かを試験によって評価します。試験の結果、合格に満たない場合には、出席状況やレポートの結果を参考にし、必要に応じて再試験を課し、判定します。

腫瘍病理学分野:出席が3分の2以上で、試験60点以上を合格とします。

テキスト・教科書 Textbooks

講義指定図書 Reading List

病態病理学 17 版／菊地浩吉監修；吉木敬 [ほか] 編集:南山堂, 2004

新病理学各論 13 版／菊地浩吉, 吉木敬編:南山堂, 2000

Robbins and Cotran Pathologic Basis of Disease, 8th ed.／Kumar et al.:Elsevier Saunders, 2009

Robbins Basic Pathology, 8th ed.／Kumar et al.:Elsevier Saunders, 2007

参照ホームページ Websites

備考 Additional Information

科目名 Course Title	医用工学概論実習 [Practice in Medical Engineering]		
講義題目 Subtitle			
責任教員 Instructor	加藤 千恵次 [Chietsugu KATOH] (保健科学研究院)		
担当教員 Other Instructors	加藤 伸彦(北海道大学病院)		
科目種別 Course Type	保健学科		
開講年度 Year	2011	時間割番号 Course Number	021524
開講学期 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class	実習	対象年次 Year of Eligible Students	3～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	保健学科[検査技術科学専攻]		
補足事項 Other Information	H20 以降入学者用・H23 入学者用		

キーワード Key Words

医用工学(ME)、電子回路、デジタル(論理)回路、ME 機器管理

授業の目標 Course Objectives

2年次で学習した情報科学および医用工学の知識を整理するために、抵抗、コンデンサ、コイル、ダイオード、オペアンプ、ロジック IC の動作原理を理解する。そのためのオシロスコープ、発振器、テスター等の測定機器の使用法を習得する。北大病院 ME 機器管理センターを見学実習し、ME、臨床工学技士の重要性を理解する。

到達目標 Course Goals

1. オシロスコープ、発振器、テスターを正しく使用できる。
2. 交流信号の特徴を理解できる。
3. 回路図をみて半田付けの作業を正しくできる。
4. CR 回路および LR 回路を作成し、その時定数と周波数特性を計算、測定できる。
5. 基本デジタル論理回路を作成し、その動作を確認できる。
6. 差動増幅器の動作を確認できる。
7. 北大病院 ME 機器管理センターを見学実習し、ME の重要性を理解する。

授業計画 Course Schedule

講義ホームページ chtgkato.com に実習計画書を示す。
小グループにて、1回約135分で15回の実習を行う。

交流信号を理解するための、オシロスコープによる交流波形、リサージュ曲線の観察。
エクセルのマクロを用いた交流信号のシミュレーション実験。
CR 結合回路、LR 結合回路による周波数フィルタの実験。
LC 回路による共振周波数の実験。
整流回路、電磁誘導の実験。
オームの法則、ホイートストンブリッジの実験。
差動増幅回路、負帰還増幅回路による心電計の実験。
北大病院 ME 機器管理センターのスタッフによる講義および病院見学実習。

準備学習（予習・復習）等の内容と分量 Homework

講義ホームページ chtgkato.com にて実習の予習とレポート提出を行う。

成績評価の基準と方法 Grading System

毎回の実験レポートと期末筆記試験により成績評価を行う。

テキスト・教科書 Textbooks

医用工学概論講義で用いた教科書 新編 臨床検査講座11 医用工学概論（医歯薬出版）を参考にしてください。

講義指定図書 Reading List

参照ホームページ Websites

chtgkato.com

備考 Additional Information

上記ホームページによる e-learning にて実習を行う。

科目名 Course Title	蛋白質工学 [Protein Engineering]		
講義題目 Subtitle			
責任教員 Instructor	森 春英 [Haruhide MORI] (大学院農学研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type	農学部専門科目		
開講年度 Year	2011	時間割番号 Course Number	017237
開講学期 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class	講義	対象年次 Year of Eligible Students	3～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	応用生命科学科		
補足事項 Other Information			
キーワード Key Words			
タンパク質, 立体構造, 酵素, 機能, 触媒			
授業の目標 Course Objectives			
この講義では、タンパク質分子の構造, 機能, および構造機能相関について基礎的知識・理論を修得して、タンパク質改変のデザインに必要な基礎的知識を学ぶ。 タンパク質の機能は、タンパク質の立体構造形成の結果、アミノ酸残基が空間に適切に配置されることにより発生する。本講義の前半では、このアミノ酸残基の空間配置がどのようになされているか、すなわちタンパク質の立体構造と立体構造形成機構とを取り上げる。タンパク質の構造データを実際に用いて、タンパク質の基本的な構造(一部は「生物化学Ⅰ」で修得した)と構造形成因子について理解する。 続いて後半では、空間に適切に配置されたアミノ酸残基がタンパク質の機能を発揮するメカニズムを考える。「分子酵素学」で修得した酵素による触媒反応を、タンパク質を立体構造に基づいて理解する。 いくつかのタンパク質の改変例を通して、実際に学ぶ。			
到達目標 Course Goals			
1.タンパク質の立体構造データを利用してタンパク質分子を観察できるようになる。 2.タンパク質の基本構造(二次構造、モチーフ・ドメイン構造)と、それらのタンパク質分子構造上での重要性を説明できるようになる。 3.タンパク質分子がとる様々な形態とその生成理由を概説できるようになる。 4.代表的酵素タンパク質の触媒反応を、反応機構と触媒中心の構造から解説できるようになる。 5.関連する基本的実験的手法を挙げて説明できるようになる。 6.代表的タンパク質改変のデザインを実際に試みた経験をもてる。			
授業計画 Course Schedule			
第1講. タンパク質の立体構造データの表示法を習得する。 第2-4講. タンパク質の基本的な構造:タンパク質の基本構造のおさらいから始める。二次構造の組み合わせが空間的に配置されて形成される立体構造を形成する。この代表的なフォールドを解説しする。いくつかの立体構造を実際に観察する。 第5-6講. 立体構造形成機構:タンパク質のフォールディング(おりたたみ)に関わる因子と速度論とについて述べる。 第7-10講. 酵素タンパク質の触媒に関わる構造:酵素反応について概説し、いくつかの例をあげて、酵素タンパク質がどのようにして反応を触媒するのか、構造に基づいて説明する。安定化・触媒能の変換など機能改変について述べる。 第11講. 基礎実験法:タンパク質工学に関係する基礎的実験法を紹介する。 第12-15講. 実例の紹介:タンパク質工学的の実例を紹介する。			
準備学習（予習・復習）等の内容と分量 Homework			
「生物化学Ⅰ」「分子酵素学」で学んだタンパク質の基礎知識を必要とする。講義では、基礎から説明するが、履修に先立ち、タンパク質の基礎知識を一般的な生化学等の教科書で見直しておくことを勧める。(2時間程度) 講義内容を深めるためのレポートがある(計5回程度、各回平均2時間程度)			
成績評価の基準と方法 Grading System			
到達目標(上述)にどの程度達したか、達成度を、試験およびレポート等により判定する。出席状況を加味して評価する。			
テキスト・教科書 Textbooks			
講義指定図書 Reading List			
タンパク質の構造入門/Carl Branden, John Tooze/ニュートンプレス, タンパク質の分子設計/後藤祐児, 谷澤克行編/共立出版, タンパク質科学：構造・物性・機能 / 後藤祐児, 桑島邦博, 谷澤克行編 / 化学同人			
参照ホームページ Websites			
備考 Additional Information			

科目名 Course Title	行動生態学 [Behavioral Ecology]		
講義題目 Subtitle			
責任教員 Instructor	和田 哲 [Satoshi WADA] (大学院水産科学研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type	水産学部専門科目		
開講年度 Year	2011	時間割番号 Course Number	019070
開講学期 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class	講義	対象年次 Year of Eligible Students	3～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
補足事項 Other Information			

キーワード Key Words

進化、自然淘汰、ゲーム理論、最適戦略

授業の目標 Course Objectives

行動生態学(あるいは進化生態学)は、「生物の性質(行動・形・生活史)は自然選択による進化を通して形作られている」という前提に立った研究アプローチをとる学問分野です。このアプローチは、近年の生態学における代表的な研究手法のひとつとなっていて、水産学を含む応用生物科学においても今後ますます適用範囲が広がることが期待されます。本講義では、動物の行動・形・生活史を対象として、行動生態学の基本的な考え方、代表的な理論と実証例を学びます。また、水産学への応用についても議論します。

到達目標 Course Goals

1. 生物の進化に関する基本的な考え方を身につける。

2. 生物の性質進化における自然淘汰の重要性を理解する。

3. ゲーム理論の考え方と基本モデルを理解する。

4. 最適戦略の考え方と基本モデルを理解する。

5. 行動生態学の考え方を種苗生産や資源管理などに応用できる。

授業計画 Course Schedule

1. 進化とは:生物の階層構造と時間スケールを意識して

2. 自然淘汰による進化:適応度と適応の違い

3. さまざまな自然淘汰:個体群密度による淘汰、形質頻度による淘汰など

4. ゲーム理論の考え方:進化的に安定な戦略、タカ・ハトゲーム

5. ゲーム理論の応用例:配偶者をめぐる闘争、親による子の世話など

6. 性淘汰:配偶者をめぐる闘争、配偶者選択、性的対立

7. 血縁淘汰:血縁度と包括適応度

8. 社会行動:親による子の保護、協力行動

9. 最適戦略:おもに摂餌行動を例として

10. 応用行動生態学:種苗生産、資源管理、生物保全への応用

準備学習（予習・復習）等の内容と分量 Homework

復習に重点を置いてください。講義ごとに宿題を課すので、講義指定図書や配布資料等を自分で読み、自分で考えなければなりません。宿題には、毎週1時間から3時間程度が必要と想定される内容を出しますが、もちろんそれ以上の時間が必要な人もいるかもしれません。また、講義中や講義後などにおける質問を大歓迎します。

成績評価の基準と方法 Grading System

授業中に出す課題(宿題:合計20点)と定期試験(中間試験と期末試験で合計80点)の得点によって評価します。得点が単位取得に満たない場合も、再試験やレポートによる再評価は、一切おこないませんので、しっかりと勉強してください。秀:90点以上、優:80点台、良:70点台、可:60点台、不可:59点以下

テキスト・教科書 Textbooks

動物の生存戦略―行動から探る生き物の不思議 (放送大学叢書)／長谷川眞理子:左右社, 2009

講義指定図書 Reading List

「進化」大全／カール・ジンマー:光文社, 2004

行動・生態の進化／長谷川眞理子ほか:岩波書店, 2006

生態学／Begonほか:京都大学学術出版会, 2003

動物生態学 新版／嶋田正和ほか:海游舎, 2005

生態学入門／日本生態学会編: 東京化学同人, 2004

参照ホームページ Websites

備考 Additional Information

科目名 Course Title		環境法 [Environmental Law]	
講義題目 Subtitle			
責任教員 Instructor		亙理 格 [Tadasu WATARU] (法学研究科)	
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2011	時間割番号 Course Number	082003
開講学期 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Students ～	
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
補足事項 Other Information			

キーワード Key Words

公害対策法、廃棄物・リサイクル法、自然保護法、都市環境法、環境リスク対策法、環境情報、環境アセスメント

授業の目標 Course Objectives

当該科目の授業は、「環境法概説」と「環境訴訟の諸相」の二本の柱からなる。「環境法概説」では、①環境法の歴史と基本原理(環境基本法を含む)及び、②公害対策法、③廃棄物法・リサイクル法、④自然保護法、⑤都市環境法、⑥環境リスク対策法、⑦環境情報の公開と市民参加手続といった環境個別法を説明し、環境法制度の基礎知識を身につける。簡易迅速な紛争解決手続としての公害紛争処理制度や環境刑法としての公害罪法のような環境法特有の制度についても、個々の関連テーマに即して適宜解説する。

「環境訴訟の諸相」では、環境訴訟として実際の環境訴訟事例を取り上げる。具体的には、①規制権限不行使に起因する国家賠償訴訟、②公害賠償訴訟としての国家賠償訴訟、③自然景観保護のための行政訴訟、④文化財や景観保護のため行政訴訟と民事訴訟、⑤公共事業計画に関する環境行政訴訟を取り上げる。こうした環境に関する事例問題を使いながら具体的な紛争処理の仕方や 訴訟法に関する応用力を身につけることを目標にする。

到達目標 Course Goals

環境法は、行政法や民法をひとつとおり学んだ者に適した科目である。環境をめぐる紛争は現代型訴訟の典型であり、現行法上の多様な訴訟制度を存分に活用しなければ妥当な解決は望めない。したがって、環境法の基礎的な知識を身につけるのはもちろんのこと、具体的な環境紛争事例の解決手法を素材にした検討により、行政法や民法の学習から得られた知識をさらに発展させることを目標にする。

授業計画 Course Schedule

「環境法概説」は講義形態で進めるのに対し、「環境訴訟の諸相」では、参加学生自身による班報告及びそれを踏まえた質疑・討論を行う。環境法の個々のテーマごとに、「環境法概説」と「環境訴訟の諸相」を適宜組み合わせ合わせた授業を行う。また、前半と後半で合計2本のレポート提出を求める。「環境訴訟の諸相」においては、個々の環境訴訟事例の主要論点を事前に提示し、提示された論点に即して報告担当学生が報告を行い、当該報告と教員による解説を踏まえて、全員で質疑討論を行う。

I 環境法概説－基礎理論と法的仕組み

- ・環境法の基本原理及び体系的な全体構造を講義形式により概説するとともに、環境法の各分野ごとの法制度を解説する。指定した教科書に加えて、配付したレジュメに沿った概説を行う。
- 1 環境法の歴史と基本原理（環境基本法を含む）
- 2 公害対策法(大気汚染防止法、水質汚濁防止法等)
- 3 廃棄物法、リサイクル法
- 4 自然保護法
- 5 都市環境法
- 6 環境リスク対策法
- 7 環境情報の公開と市民参加の手続－環境アセスメント法を含む

II 環境訴訟の諸相

- ・環境問題が争われた重要判例を取り上げ、担当班による報告及び討論を通して、各訴訟で争われた環境法上の重要問題に関する理解を深めるとともに、環境訴訟における訴訟目的に応じた訴訟形態のあり方、及び各訴訟形態の特質と機能について分析を加える。
- ・「環境百選」は『環境判例百選』(有斐閣、2004年)、「行政百選」は『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ』[第5版](有斐閣、2006年)、「平成〇〇年度重判解」は別冊ジュリスト『平成〇〇年度重要判例解説』(有斐閣)を指しており、その後に付した番号は、その中での事件番号を指している。

1 公害規制権限不行使に起因する国家賠償訴訟——熊本水俣病関西訴訟の検討を通して
最二小判平成 16・10・15 民集 58 巻 7 号 1802 頁, 判時 1876 号 3 頁, 行政百選Ⅱ226 番

2 公害賠償訴訟としての国家賠償訴訟——国道43号線訴訟の検討を通して
最二小判平成 7・7・7 民集 49 巻 7 号 1870 頁, 判時 1544 号 18 頁, 判タ 892 号 124 頁, 環境百選 43 番

cf[差止請求について]国道43号線訴訟最二小判平成7・7・7民集49巻7号2599頁(棄却例)

3 自然景観保護のための訴訟

① 軀の浦訴訟——公有水面埋立て免許差止め訴訟／仮の差止め申立て事件

広島地決平成20・2・29判例時報2045号98頁

広島地判平成21・10・1判時2060号3頁

② 環境住民訴訟——織田が浜訴訟の検討を通して

＜住民訴訟の訴訟要件に関する破棄差戻判決＞

最三小判平成5・9・7民集47巻7号4755頁,判時1473号38頁

＜差戻し後の高裁判決＞高松高判平成6・6・24判タ851号80頁(環境百選80番)

4 文化財や景観保護のための訴訟——国立マンション事件の検討を通して

① 東京地判平成13・12・4(市村判決)判時1791号3頁 cf.東京高判平成14・6・7判時1815号75頁

② 東京地判平成14・12・18判時1829号36頁(宮岡判決)

cf.東京高判平成16・10・27判時1877号40頁(大藤判決),最一小判平成18・3・30民集60巻3号948

5 公共事業計画に関する環境行政訴訟——小田急高架化訴訟の検討を通して

＜周辺住民の原告適格＞

最大判平成17・12・7民集59巻10号2645頁,判時1920号13頁,判タ1202号110頁,

行政百選176番,平成17年度重要判例解説58頁

＜適法性についての本案判断＞

最一小判平成18・11・2民集60巻9号3249頁,判時1953号3頁,平成19年度重判解38頁

cf.第1審:東京地判平成13・10・3判時1764号3頁

準備学習（予習・復習）等の内容と分量 Homework

毎回、教科書の該当部分を十分に読み込んで出席すること。事例報告の担当者は、当該判例、従前の判例及び学説について数日間集中した準備が必要である。その他の受講者も、最低限、当該判例を熟読して来ることが求められる。

成績評価の基準と方法 Grading System

学期末試験を実施し、主として(70%程度)試験成績を中心に評価するが、それに、提出されたレポートの成績、担当した訴訟事例に関する報告及び毎回の討論の中での発言の積極性や論理性等を加味して評価する。

テキスト・教科書 Textbooks

環境法入門(補訂版)／交告尚史・白杵知史・前田陽一・黒川哲志:有斐閣,2007

環境法[第3版]／大塚直:有斐閣,2010

環境法[第3版補訂版]／阿部泰隆・淡路剛久編:有斐閣,2006

授業では、六法として、新司法試験用六法(第一法規)の最新版を用いる。

講義指定図書 Reading List

環境法ケースブック(第2版)／大塚直・北村喜宣編:有斐閣,2009

環境政策論／倉阪秀史:信山社,2004

参照ホームページ Websites

備考 Additional Information

科目名 Course Title	行政マネジメントⅠ [Public Administration Ⅰ]		
講義題目 Subtitle			
責任教員 Instructor	宮脇 淳 [Atsushi MIYAWAKI] (大学院公共政策学連携研究部)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2011	時間割番号 Course Number	082019
開講学期 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class	対象年次 Year of Eligible Students		～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
補足事項 Other Information			
キーワード Key Words			
行政、財政、税、公会計、官僚、公務員、行政改革、財政改革、税制改革、地方自治体、地方分権、地域主権、公共事業、国債、地方債、財政赤字、財政投融资、金融、郵政、特殊法人、独立行政法人、官民連携、民間化、パートナーシップ、参加、PFI、PPP、NPM、地域格差、大都市、総務、財務、ガバナンス、ガバメント、右肩上がり、少子高齢化、グローバル化、中央集権、第三セクター、社会資本、経済、持続的成長、社会保障			
授業の目標 Course Objectives			
行政マネジメントⅡとセットで同年度に履修することが前提。行政学の基礎から政策学の基礎に至る領域を財政の視点から結びつけ、金融危機、地方分権、地域主権、官民連携も含めた学際的な基礎知識と思考の習得を目指します。			
前半の行政経営編と財政金融編に分け、履修者の理解度に合わせて進行します。行政経営編では、行政学の基礎からスタートします。公共性とは何か、財・サービスの性格、官・公的部門とその組織とは何か、そこでの行政活動、意思決定の特性等を考え、市場モデル、社会モデル、政治モデル等の政策形成モデルの基礎を踏まえた上で、財政をはじめとする公的部門の制度並びにそこで展開される政策形成の問題点と根底に位置する基礎理論を整理します。以上を通じて右肩上がり時代の行財政、21世紀のグローバル化、少子高齢化時代の行財政のガバナンスの違い等を考えます。			
後半の財政金融編では、財政に関する基本構造と基本原則、橋本内閣以降の行財政改革、国家財政と地方財政の関係、地方分権改革の構図そして財政と金融の関係など具体的な事例を通じて整理し行政経営編との融合を図りつつ行財政全体の理解をさらに深めます。その際、グローバル社会からの日本財政、金融と財政の関わり、財政分析等も織り込みます。			
到達目標 Course Goals			
国、地方自治体の行財政構造とそこで抱える問題点を理論的に整理できる基礎知識と思考をグローバルな視野から養います。同時に、国、地方自治体を問わず求められている組織経営、財務、評価等に関する基礎知識の習得を具体的事例に基づき目指します。行政部門の研究に加え、国家公務員、地方公務員、公的企業、公共部門との連携を強める民間企業等を目指す学生にとって必要不可欠な知識と政策モデルに基づく実践的思考力の修得を到達目標として掲げます。また、授業では経済社会で展開されている様々な事象を如何に理解し分析するかの新たな視点、思考の養成を意識しながら進めていきます。			
経済社会構造を体系的に習得したい、国や地方自治体の公務員としての基礎知識を習得したい、民間部門から社会インフラ整備や公共サービス等公的部門の領域に関与するための基礎知識を習得したい等の希望に応えることを目的とします。			
授業計画 Course Schedule			
授業は以下の主な流れで展開する。応用編について、履修者の理解度に合わせて進行します。			
前半. 行政経営編			
・戦後日本の特性と政策形成における偏見の存在			
・日本における21世紀の経済社会の構造変化			
・中央集権と地方分権			
・政策モデルの基本(市場モデル、社会モデル、政治モデル等)			
・公共選択アプローチと厚生経済アプローチの基礎概念			
・満足化と最適化の政策決定			
・NPM理論、PPP理論の基礎			
・財サービスの性質分析			
・公共性とは何か			
・官民連携モデルの基本 等			
後半.財政・金融編			
・財政とは何か			
・世界の中の日本財政			

- ・財政情報の意義と課題
- ・予算制度、国債、税制度に関する基本原則
- ・国家財政と地方財政の関係
- ・地方分権改革、国と地方の行財政関係
- ・財政と金融の関係 等

準備学習（予習・復習）等の内容と分量 Homework

教科書及び授業の対象となる部分のテキストを事前に配付するので必ず一読し、授業後はノートの整理と共に再度該当範囲のテキストを復習すること。また、ニュース等には常に関心を持ち現実社会で展開されている経済社会活動を行財政そして政策の面からいかにとらえるべきか常に考える姿勢を持つこと。

成績評価の基準と方法 Grading System

評価は以下の方法による。出席点10点、期末定期試験90点。期末定期試験では、予め出題予定問題を3題提示し、その内2題を出題する形態で実施。なお、授業は学部合併で展開するものの試験問題は学部とは別内容で実施する。定期試験での評価は以下の基準による。

1. 授業中に説明した行財政制度の基礎知識を習得している水準は、「可」。
2. 1. に加え、授業中に整理した行財政に関する基礎理論を活用し現象面をある程度普遍化すること、あるいは政策レベルの思考を加えることが出来ることなど、入門的応用能力を習得している水準は、「良」。
3. 2. に加え基礎理論を応用し政策論をある程度展開できる応用能力と思考に関するモデル力を有する水準は、「優」。
4. 1. に至らない水準は、「不可」。
5. 出席点は、加算点として評価し、減点対象としたり「評価せず」とすることはしない。

テキスト・教科書 Textbooks

教科書については、初回ガイダンスの際に指定する。
授業用に作成した基本テキストを授業の進度に合わせて配付する。

講義指定図書 Reading List

財政学—転換期の日本財政—／片桐正俊:東洋経済新報社, 1998
財政思想史／池上惇:有斐閣, 1999
財政学／神野直彦:有斐閣, 2002
創造的政策としての地方分権／宮脇淳:岩波書店, 2010
公共の哲学／片岡寛光:早稲田大学出版部, 2002
自治体戦略の思考と財政健全化／宮脇淳:ぎょうせい, 2009

参照ホームページ Websites

財務省 <http://www.mof.go.jp>, 総務省 <http://www.soumu.go.jp>, 富士通総研新地方自治ホーラム <http://www.pppnews.org/>

備考 Additional Information

必ず行政マネジメントⅠとⅡをセットで同年度に履修すること。どちらか一方だけの履修は認めない。

科目名 Course Title	国際私法学特殊演習A [Seminar in Conflict of Laws A]		
講義題目 Subtitle			
責任教員 Instructor	嶋 拓哉 [Takuya SHIMA] (法学研究科)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2011	時間割番号 Course Number	082089
開講学期 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class	対象年次 Year of Eligible Students ~		
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
補足事項 Other Information			
キーワード Key Words			
国際財産法、国際家族法、国際裁判管轄、国際商事仲裁、国際倒産、準拠法と公法の適用関係、民事実質法の比較法的分析			
授業の目標 Course Objectives			
国際私法および国際民事手続法に関する判例および学術文献を参照しつつ、準拠法決定のプロセスや国際的な民事手続の特徴点、それにその先にある実質法に関する比較法的分析に習熟することを本演習の目標に据えます。 さらに近時では、準拠法と公法との関係が取りざたされていることに鑑み、両者の適用関係についても本演習の射程が及ぶように努めたいと思います。			
到達目標 Course Goals			
国際私法および国際民事手続法には馴染みのない方も多いと思いますが、実は民事関連の判決で、渉外的な要素が含まれる事案はすべて、国際私法あるいは国際民事手続法上の観点から、国際裁判管轄や準拠法といった問題を取り上げて処理していくことが求められます。従って、第一の到達目標は渉外的な要素が含まれる民事事件について、実質法上の処理をする前に抵触法上の処理を行うということが何を意味するのかを理解し、その具体的な作業を行うことができるようになることにあります。 第二の目標は、準拠法が必ずしも日本法になるわけではないという前提を踏まえ、外国実質法とわが国実質法との比較法的な視点を持ち、特にわが国実質法を相対的に理解するという視点を持つことです。国際私法の醍醐味は単にルールに従って準拠法を決定することだけにあるのではなく、その先にある実質法に関する比較法的把握にもあります。「国際私法+比較法」のセットを意識しつつ、学習を進めることが大切です、それがこの学問領域の面白さでもあることを認識して欲しいと思います。 第三の目標は、他の法領域との接点を探ることです。準拠外国法と国内民事手続法との接続や、準拠法同士の接続がどうなっているのかという視点は国際私法にとって最も重要なポイントですが、それに止まらず、準拠法と公法との適用関係等にも研究の対象を拡大してみようと考えています。			
授業計画 Course Schedule			
国内外の裁判例や学術文献をテーマとして取り上げ、それについて参加者全員で討論を行う形で、本演習を進めていきたいと考えています。討論に当たっては、事前に報告者を決めたいと考えています。 参加者の顔ぶれが固まらないと、演習で取り上げるべきテーマの具体的な内容が明確には決まらないかもしれませんが、参加者と相談のうえ、財産法関連と家族法・親族法関連の中から幅広く選定することとします(例えば、近時問題となっている国際的代理母の事案や国際的な知的財産権紛争、国際金融倒産、国際商事仲裁なども候補の一つです)。 さらに、テーマによっては、近時わが国における裁判例・学術文献のみならず、米国、英国、ドイツの裁判例・学術文献が主たる対象になると思います(また留学生の方であれば、自国の裁判例を報告してもらっても構わないと思います)。 また、「授業の目標」「到達目標」でも記述しましたが、最近では準拠法と公法との適用関係が重要テーマとして認識されてきました。公法的な視点からも重要と思われる議論が出現していますので、可能であれば是非この領域も本演習の射程に含めたいと考えています。この点には日本語文献のみならず、場合によっては海外の裁判例等を購読すると、分析の視点が拡がり面白いと思います。			
準備学習（予習・復習）等の内容と分量 Homework			
各回の報告者は自身が報告を担当する演習回までに報告資料を作成することが求められます。また報告者に当たっていない参加者は、あらかじめ選定された裁判例や文献を読み、各回の演習に臨むことが要求されます。			
成績評価の基準と方法 Grading System			
報告内容、質疑応答、および討論への参加状況を踏まえて総合的に評価します。			
テキスト・教科書 Textbooks			
講義指定図書 Reading List			
参照ホームページ Websites			
備考 Additional Information			
教材等については、参加者と相談のうえ適宜お伝えします。 国際私法・国際民事手続法に関して体系的に知識を習得していなくても、裁判例や学術文献に接し、その処理に必要な範囲で並行的に			

知識を習得していけば、学習は可能だと考えます。国際私法・国際民事手続法が既修であることは受講要件ではありません。

「国際財産法」「国際家族法」「国際倒産」「国際商事仲裁」「公法との適用関係」「実質法の比較法的分析」と取り上げられるべきテーマは広範多岐に亘っています。様々な領域を研究している学生皆さんの参加を期待しています。

科目名 Course Title	民法Ⅲ [Civil Law Ⅲ]		
講義題目 Subtitle			
責任教員 Instructor	池田 清治 [Seiji IKEDA] (法学研究科)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2011	時間割番号 Course Number	070007
開講学期 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class	講義	対象年次 Year of Eligible Students	1～3
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
補足事項 Other Information			

キーワード Key Words

授業の目標 Course Objectives

基礎プログラム民法Ⅰ，民法Ⅱを受け，民法Ⅲでは担保法と法定債権債務関係を学ぶ。担保法では人的担保である保証と担保物権を取り上げ，法定債権債務関係では不法行為法が中心となる。前者は契約当事者だけでなく，第三者も利害関係に絡んでくるので，民法ⅠⅡの応用的問題領域であり，他方，後者では，契約法と対比しつつ，合意によらない権利義務関係の形成に関する法規範を理解する。（取り上げる分野については，【到達目標】を参照。）

到達目標 Course Goals

前半の担保法では，担保法が債務不履行に対する対策・予防であることから，まず債務不履行について確認した後，弁済に関する債権総論上の諸制度を概観し，債権者代位権や詐害行為取消権についても，債権回収の観点から捉え直す。しかし，これらの措置にも限界があることから，債権担保の必要性を確認し，まず人的担保(保証)を取り上げ，続いて物的担保に移る。ここでは，抵当権，質権，譲渡担保の順に検討し，所有権留保や代理受領等の新たな担保形態も紹介する。さらに関係当事者の最終的な利益調整制度である求償及び代位にもふれ，最後に法定担保制度に入る。

後半では，不法行為，事務管理，不当利得，の順で説明する。不法行為では，まず基本的不法行為(709条)について，故意過失，権利侵害・違法性，損害，因果関係という要件について説明し，不法行為の帰責原理の全体像を示す。効果論では，損害額算定作業のほか，過失相殺，損益相殺，その他の賠償額減額制度を取り上げる。特殊的不法行為については，基本的不法行為のどの点をどのように修正しているかを説明し，それらの存在理由を考える。不当利得では，契約・不法行為との対比でその存在意義を説明したうえ，給付利得と侵害利得のそれぞれにつき，要件・効果を説明する。（具体的なスケジュールについては，【授業計画】を参照。）

授業計画 Course Schedule

授業は，以下の順序で進める。

第1部 担保法

第1章 総復習・民法Ⅱ（債務不履行制度など）

第2章 人的担保

①保証

②連帯債務と債務引受

第3章 抵当権

①抵当権の成立

②抵当権の効力

第4章 質権

①質権の成立

②質権の効力

第5章 非典型担保

①譲渡担保

②代理受領と振込指定

第6章 法定担保制度

①留置権

②先取特権

第7章 求償と代位

第2部 法定債務債権関係

第8章 概観・不法行為，不当利得，事務管理の，契約に対する特質

第9章 基本的不法行為

①不法行為規定の構造と基本的要件・効果

②要件その1・過失：予見可能性説から結果回避義務説へ，注意義務の程度・基準

- ③要件その2・権利侵害:権利侵害から違法性へ, 裁判例における判断の実相
- ④要件その3・因果関係:相当因果関係論から, 事実的因果関係・保護範囲・損害金銭的評価の区別へ, 裁判例における因果関係
- ⑤効果その1・損害と損害賠償請求権:損害の捉え方(差額説と損害＝事実説)
- ⑥効果その2・賠償額の減額:過失相殺と損益相殺

第10章 特殊的不法行為

- ①監督義務者責任
- ②使用者責任
- ③工作物責任
- ④共同不法行為

第11章 事務管理

第12章 不当利得

- ①要件:受益, 損失, 因果関係, 法律上の原因の不存在
- ②効果:給付利得と侵害利得
- ③特殊不当利得

準備学習（予習・復習）等の内容と分量 Homework

民法ⅠⅡと同様, 次のような手順で授業を進める。

- ①まず教員が講義予定部分に関するサブノート式の教材を配布する。履修者は指定された教科書を参照しながら, 予習の段階で, そのサブノートの余白を埋める。
- ②授業では, 教材に沿って, その内容の概略を説明するが, 適宜, 確認の質問をする。質問の内容は, 概念や用語法であることもあれば, 簡単な事例をベースとする場合もある。
- ③当該授業が終わった後, 履修者は指定された教科書と教材を参照しながら, 復習を行う。
- ④各単元ごとに, 適宜, 演習問題(事例形式)を出題・解説し, 一層の理解の深化を図る。
- ⑤なお, 授業は民法法基礎ゼミとの連携を保ちつつ進める。履修者は授業をよりよく理解し, また表現力を身につけるため, 民法法基礎ゼミで学ぶことが不可欠である。

成績評価の基準と方法 Grading System

出席は必須である。成績評価は, 定期試験の成績と民法法基礎ゼミでの成績を総合的に勘案して判断する。その比率は8対2程度にする予定である。

テキスト・教科書 Textbooks

民法Ⅲ(債権総論・担保物権)〔第3版〕／内田貴:東大出版会, 2005

サブノート式の教材はこちらで用意する。

講義指定図書 Reading List

参照ホームページ Websites

備考 Additional Information

科目名 Course Title	体育授業論A		
講義題目 Subtitle			
責任教員 Instructor	西尾 達雄 [Tatsuo NISHIO] (教育学研究院)		
担当教員 Other Instructors	厚東 芳樹(教育学研究院)		
科目種別 Course Type	教育学院専門科目		
開講年度 Year	2011	時間割番号 Course Number	047072
開講学期 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class	講義	対象年次 Year of Eligible Students	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
補足事項 Other Information			
キーワード Key Words			
体育授業、教師を高める授業研究、歴史			
授業の目標 Course Objectives			
今、学校教育現場では病理的現象(いじめ、不登校、学級崩壊、校内暴力、薬物汚染等)が噴出している。この要因として、教師の「専門職としての自覚」が弱くなってきたことがある。そこで、優れた教師像(とくに体育教師像)について考え、これまでの体育の授業研究によって明らかになってきた学習成果の高い教師たちの授業の特徴について理解する。また、興味のある運動種目や運動教材の戦術史や発展史を整理することで、実際に現場で役立つ教材研究を実施することで、教材研究の一つの観点を身につける。			
到達目標 Course Goals			
・これまでの著名な実践者たちの実践事例を知り、「専門職」とはどうあるべきかを考える			
・これまでの著名な教育者たちの実践事例を知り、「専門職としての教師」はどうあるべきかを考える			
・良い体育授業を成立させるための「基礎的条件」と「内容的条件」について理解する			
・教師行動の種類を理解したうえで、授業実践の録画VTRを基に教師行動を分析することができる			
・学習者行動の種類を理解したうえで、体育授業中の子どもたちの様子(録画VTR)を基に学習成果の高い学級の子どもたちの行動(学習者行動)を知ることができる			
・興味のある運動種目や運動教材の戦術史や発展史を整理する			
授業計画 Course Schedule			
第1回:オリエンテーション			
Ⅰ. 著名な実践者・教育者たちの実践事例を読む			
第2回:卓越した実践者たち(プロ野球の野村監督、医学界の福島先生、祇園の岩崎氏 等など)のもつものの見方・考え方・行い方			
第3回:卓越した教師(斎藤喜博、山本貞美等)のもつものの見方・考え方・行い方			
第4回:卓越した教師の一人である高田典衛のもつ体育教師像と子ども観			
Ⅱ. 体育授業研究史から学ぶ			
第5回:学習指導要領の変遷からみたこれからの体育授業			
第6回:「プロセス・プロダクト」研究法を用いた体育授業研究ー「基礎的条件」と「内容的条件」についてー			
第7回:「プロセス・プロダクト」研究法を用いた体育授業研究ー教師行動と学習者行動についてー			
第8回:「プロセス・プロダクト」研究法を用いた体育授業研究ー優れた教師の反省的思考と出来事への気づきについてー			
第9回:教師行動と学習者行動の分析			
第10回:「教師を高める授業研究」の有効性と限界			
Ⅲ. 保健体育科の「教科内容学」を考える			
第11回:運動教材の戦術史と発展史から行う「学習過程の組織化」			
第12回:運動教材の戦術史と発展史から行う評価法の作成			
第13回:いゝ指導案に存在する「教科内容に関する記述」を学ぶ			
第14回:「教材編成(一斉学習と課題解決的学習)」の方法を知る			
第15回:運動種目や運動教材の戦術史や発展史の整理			
・興味関心のある実践者(例えば、プロ野球の野村監督、医学界の福島先生、祇園の岩崎氏等など)の著書を読み、報告する			
・著名な教育者(例えば、斎藤喜博、高田典衛、大村はま、山本貞美等など)の著書を読み、報告する			
・「専門職としての教師」のあり方について検討する			

II. 体育授業研究史から学ぶ

- ・「プロセス・プロダクト」研究法を契機に飛躍的に発展した体育分野の授業研究の成果について知る
- ・授業実践の録画VTRを基に、教師行動分析を経験する
- ・「教師を高める授業研究」の限界について考える

III. 運動種目や運動教材の戦術史や発展史の整理

- ・授業を実践するには多種多様な知識と技術が必要であることを理解した上で、興味のある運動種目や運動教材の戦術史や発展史を整理することで、自身が教える際の知識を増やす

準備学習（予習・復習）等の内容と分量 Homework

様々な著書を読みこなすことを求める。とりわけ、報告担当者になったときには1冊の本を中心に関連した著書や文献を収集・整理することを求める。

成績評価の基準と方法 Grading System

- ・欠席が4回以上の者は評価対象外とする
- ・教師行動の分析が実践できることを成績対象者の最低条件とする
- ・レポート内容、報告内容、運動種目や運動教材の戦術史や発展史の整理した内容などを評価する

テキスト・教科書 Textbooks

講義指定図書 Reading List

参照ホームページ Websites

備考 Additional Information

- ・希望者は、学校教育現場やスポーツ指導の場面に参加することもできる(ただし、スポーツ指導の場面には実費が必要になる)

科目名 Course Title		開発政治社会論演習 [Political Sociology of Development]	
講義題目 Subtitle			
責任教員 Instructor		鍋島 孝子 [Takako NABESHIMA] (メディア・コミュニケーション研究院)	
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2011	時間割番号 Course Number	083036
開講学期 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Students	1～2
対象学科・クラス Eligible Department/Class		国際広報メディア専攻	
補足事項 Other Information			
キーワード Key Words			
アフリカ、近代化、文化変容、民族、市民社会			
授業の目標 Course Objectives			
アフリカの社会と国家の特徴的な関係を、理論と歴史的考察によって理解する。アフリカの社会においては、近代化(国民国家の導入、産業・経済構造、法律、道徳的価値観など)がもたらした暴力と周縁化を見ると同時に、その近代性を打ち壊すようなダイナミズムがある。外因性と内因性の因果関係を明らかにして、土着の社会構造が変容し、政治化していく過程を学習する。方法としては、政治学や人類学、経済学、社会学などの様々なアプローチから追求する。このような演習は、紛争と貧困、急速な発展と格差といった今日の激動のアフリカを読み解くことに役立つであろう。			
到達目標 Course Goals			
アフリカにおいて突如内戦が勃発したような報道内容は説明的でないだけではなく、暴力性や野蛮性だけが先行してしまう。紛争や社会のダイナミズムの構造的要因を見極め、科学的に検証する方法を身につけること。講読した文献や理論を評価・批判して得た知識を基に、アフリカの現状を分析する能力を養成する。このような訓練は、アフリカという特定の地域のみならず、社会科学の基礎であり、他の地域研究にも応用できると考える。決して専門家のレベルを求めているわけではなく、失敗を恐れず、生き生きした感性によって率直に考えを述べてほしい。			
授業計画 Course Schedule			
以下の授業計画では、3つのテーマを掲げる。それぞれのテーマに沿って各セクションは、教員の講義・解説、一般理論の購読発表・討論、アフリカ文献の購読発表・討論によって構成される			
1. 本演習の概要。何を学ぶか・教員の現地調査報告から理解すること。			
第1テーマ:近代化と社会の多層化			
2. 講義			
3. Ph.ダービー『帝国主義の三つの顔:アジア・アフリカへのアプローチ:1870—1970』昭和堂(1989)			
4. 川田順造「いま、なぜ『開発と文化』なのか」川田順造その他『開発と文化1:いま、なぜ「開発と文化」なのか』岩波書店(1997)pp.1-57。			
5. G. バランディエ『意味と力 社会動学論』法政大学出版局(1995)			
第2テーマ:国家体制論と民主化			
6. 講義			
7. J. リンス『全体主義体制と権威主義体制』法律文化社(1995)			
8. P. Ahluwalia, Politics and post-colonial Theory: African inflections, Routledge (2001).			
9. J-F. Medard, “The Underdeveloped State in Tropical Africa: Political Clientelism of Neo-patrimonialism?”, (in) Ch. Clapham ed., Private Patronage and Public Power : Political Clientelism in the Modern State, France Pinter (1982) pp.162-192.			
10. C. Ake, The Feasibility of Democracy in Africa, CODESRIA (2000).			
第3テーマ:民族性と市民社会: 国民国家を超える概念			
11. 講義			
12. アントニー・D・スミス『ネイションとエスニシティ 歴史社会学的考察』巢山靖司・高城和義 他訳、名古屋大学出版会(1999)			
13. P. Ekeh, “The Constitution of Civil Society in African History and Politics”, in B. Caron et al.eds., Democratic Transition in Africa, CREDU Documents in Social Sciences and Humanities (1992).			
14. B. Berman, et al.,eds., Ethnicity and Democratization in Africa, Oxford James Curry (2004).			
15. 武内進一『現代アフリカの紛争と国家: ポストコロニアル家産制国家とルワンダ・ジェノサイド』明石書店(2009)			
準備学習 (予習・復習) 等の内容と分量 Homework			

文献は発表者のみならず、参加者全員が読んでくること。政治学や社会学を今まで専攻していなくとも、基本となる文献から始められる。発表者は購読文献を要約する。また、発表グループとして事前に議論し、文献についての批判と問題提起の論点を参加者に示すこと。授業中、その論点に基づき、国際情勢とアフリカについての討論が活発になることが望まれる。

成績評価の基準と方法 Grading System

文献の読解力、授業の参加状況、議論における論点の指摘などを評価の対象とする。

授業終了後、アフリカ諸国のうちから1国を選択し、その選択国の政治的社会的現状を読んできた文献から分析するレポートを課題とする。

テキスト・教科書 Textbooks

講義指定図書 Reading List

参照ホームページ Websites

備考 Additional Information

購読予定の単行本については、適当な箇所を抜粋して購読する予定。

科目名 Course Title	文化資源デザイン論演習 [Seminar in Cultural Resource Design]		
講義題目 Subtitle			
責任教員 Instructor	山村 高淑 [Takayoshi YAMAMURA] (観光光学高等研究センター)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2011	時間割番号 Course Number	083089
開講学期 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class			対象年次 Year of Eligible Students 1～2
対象学科・クラス Eligible Department/Class	観光創造専攻		
補足事項 Other Information			
キーワード Key Words			
文化資源、コンテンツ・ツーリズム、文化の多様性、文化交流、メディア、ポピュラーカルチャー、サブカルチャー			
授業の目標 Course Objectives			
人は物語(＝コンテンツ)を求めて旅をします。そしてある物語を共有したとき、人と人は交流をすることができます。このことは「旅」の持つ文化的な本質のひとつです。 現在、旅行市場は成熟し、人々の趣味や嗜好の多様化にあわせて、旅行市場自体も細分化してきています。それに従って、旅行者や自治体も、コンテンツを求めるという旅の本質に気が付き始めています。文化資源とは単なる“モノ”ではなく、その奥にある、地域の“物語性”であるということに気が付き始めたのです。言い替えれば、その土地の持つ世界観や、その土地を舞台にした作品や歴史の“物語性”に浸る旅のあり方、そしてそうした“物語性”を他者と共有することで生まれる交流のあり方に注目が集まっているのです。			
本演習では、こうした旅のあり方を「コンテンツ・ツーリズム」と呼び、内外事例の研究を通して、文化資源としてのコンテンツ、文化交流・地域振興のあり方としてのコンテンツ・ツーリズムの可能性について検討していきます。 具体的には、アニメ、マンガ、小説、映画等のコンテンツ(作品)が地域資源とどのように結びつき、特定の場所に人々を惹き付けるのか、そのプロセスについて見ていきたいと思います。			
到達目標 Course Goals			
本演習において受講者は、以下 3 点の学習目標に到達することが期待されます。 (1)2005 年に国土交通省・経済産業省・文化庁が共同で作成した「映像等コンテンツの製作・活用による地域振興のあり方に関する調査報告書」における「コンテンツ・ツーリズム」の定義を踏まえ、「地域に関わるコンテンツ(映画、テレビドラマ、小説、マンガ、ゲームなど)」が、文化資源・観光資源として、政策的に重視されつつある背景を理解すること。 (2)近年国内で注目されているアニメやマンガを活用したまちおこし事例を整理し、これら事例がそれまでの観光振興・地域振興とどう異なるのか、その特性と課題を理解すること。 (3)こうしたコンテンツをきっかけとしたインバウンド誘致の可能性について、関連する事例を調査し、コンテンツの国際的な観光資源化プロセスについて理解すること。			
授業計画 Course Schedule			
1～4 のセクションは最初の週に講義を行い、次週以降は受講者による調査結果のプレゼンテーションならびにそれに基づく徹底した総合討議を行ないます。講義・プレゼンテーションともに、画像や映像資料を多用します。 導入:文化資源としてのメディアコンテンツとは(第1週) 授業の概要、目標、教材、評価法等について周知するとともに、文化資源、コンテンツ・ツーリズムの考え方・定義、思想的背景と現代的意義について概説します。 第1 セクション:コンテンツ・ツーリズムの歴史・事例の把握(第2 週～6 週) 国内外の観光開発事例から、地域に関わるコンテンツ(映画、テレビドラマ、小説、マンガ、ゲームなど)を活用した事例を取り上げ、コンテンツ・ツーリズムの歴史と事例を整理し、コンテンツの観光資源化プロセスについて明らかにするとともに、コンテンツの種別と観光開発のあり方の関係性について検討を行います。 第2 セクション:地域づくりのツールとしてのコンテンツ・ツーリズムの可能性の検討(第7 週～第12 週) 近年特に注目を集めている、マンガ・アニメ・ゲーム・キャラクターを活用した観光開発の先駆的な事例を取り上げ、各事例について、コンテンツ・ツーリズムを成立させる背景、地域社会・著作権者・来訪者の協働方式について検討します。 第3 セクション:地域振興・コンテンツ産業振興の新たな可能性に関する検討(第13 週～第15 週) 実際にコンテンツ・ツーリズム開発に関わった方の話を聞くことで、現場の苦労を学びます。そしてそれを踏まえたうえで、これまでの演習内容を総合し、地域振興・コンテンツ産業振興の新たな手法としてのコンテンツ・ツーリズムの可能性について検討します。			

準備学習（予習・復習）等の内容と分量 Homework

指定した教科書・参考文献に関して授業の前に該当部分を指示するので熟読しておいてください。また随時、参考資料も配布します。また随時、自らの論点を明確にするための小論を課しますので、復習を兼ねて執筆をお願いします。

成績評価の基準と方法 Grading System

出席点＋プレゼンテーション内容＋討議での発表状況＋期末レポートの結果を総合的に判断して評価する。秀(90 点以上)、優(89～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下)とする。

テキスト・教科書 Textbooks

アニメ・マンガで地域振興へまちのファンを生むコンテンツツーリズム開発法へ／山村高淑:東京法令出版, 2011

講義指定図書 Reading List

メディアコンテンツとツーリズム：鷺宮町の経験から考える文化創造型交流の可能性 (CATS 叢書：観光学高等研究センター叢書；第 1 号)／北海道大学観光学高等研究センター文化資源マネジメント研究チーム:北海道大学観光学高等研究センター, 2009

次世代まちおこしとツーリズム：鷺宮町・幸手市に見る商店街振興の未来 (CATS 叢書；第 4 号)／山村高淑・岡本健(まか):北海道大学観光学高等研究センター, 2010

参照ホームページ Websites**備考 Additional Information**

科目名 Course Title	健康評価科学特講演習 [Advanced Seminar on Exercise on Health Evaluation]		
講義題目 Subtitle			
責任教員 Instructor	齋藤 健 [Takeshi SAITOH] (保健科学研究院)		
担当教員 Other Instructors	小笠原 克彦, 千葉 仁志, 山内 太郎		
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2011	時間割番号 Course Number	087013
開講学期 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class	演習	対象年次 Year of Eligible Students	1～1
対象学科・クラス Eligible Department/Class	保健科学専攻[保健科学コース]		
補足事項 Other Information			
キーワード Key Words			
健康科学, 健康評価, 演習, プレゼンテーション, 研究技術力, 調査能力, 計画立案能力, 討議能力, 論文作成			
授業の目標 Course Objectives			
健康評価科学特講演習は、健康科学に関連する研究を行う院生の研究経過発表および学内外の研究者による学際的な研究成果発表と討論を中心として演習を行う。具体的には、院生は、研究目的、研究計画、研究の進捗状況の経過発表を行い、その都度、指導教員および担当教員から指導・助言を受けながら、論文の書き方、プレゼンテーションの方法、今後の研究の進め方などについて演習する。さらに、研究テーマの異なる他の院生および研究者の研究発表を聞き、討論に参加することにより、広範囲にわたる健康科学に関する知識と研究方法、考え方を習得する。これらの演習を通じて、健康科学に関連する研究を遂行するために必要な、研究技術力、調査能力、計画立案能力、プレゼンテーション能力、討議能力、論文作成能力などの高度な研究実践能力を身につける。			
到達目標 Course Goals			
1. 設定された健康科学関連の研究テーマの情報収集・分析、討議を行い、それに沿って具体的な研究計画を立案できる。 2. 自らの研究経過をまとめ、その内容について、的確なプレゼンテーションおよび質疑応答ができる。 3. プレゼンテーションに対する討議内容をもとに、今後の研究方向を決定し、遂行できる。 4. 健康科学関連の学際的な研究発表を聞き、多角的な健康評価法を理解し、討議に参加できる。 5. 研究テーマに関する討議内容を踏まえ、研究成果を取りまとめ、論文を作成できる。			
授業計画 Course Schedule			
オムニバス方式で1回 90 分の演習を全 15 回行うが、特に、院生の研究経過発表および学内外の研究者による学際的な研究成果発表と討論を中心として演習を行う。			
(小笠原克彦 教授／4回)			
健康に関わる情報技術や技術評価・経済性分析に関連した研究計画を立案し、研究結果の検討と今後の研究の進め方について討議を行う。さらに、関連分野の国内外の最先端の研究者の発表を聞き、討論を重ねることで、修士課程や健康評価科学特講等で身につけた知識と技法をさらに向上させるとともに、博士論文作成のための高度な研究実践能力を身につける。			
(齋藤 健 教授／4回)			
環境要因に対する生体応答と健康との関連を追求した研究計画を立案し、プロGRESSレポートを行い、研究結果の検討と今後の研究の進め方について討議を行う。さらに、関連分野の国内外の最先端の研究者の発表を聞き、討論を重ねることで、修士課程や健康評価科学特講等で身につけた知識と技法をさらに向上させるとともに、博士論文作成のための高度な研究実践能力を身につける。			
(千葉 仁志 教授／4回)			
脂質代謝、糖代謝およびエネルギー代謝調節に関わるバイオマーカーと健康との関係について特定の研究テーマを想定し、市場ニーズや学術論文・特許などに関する情報検索を行う。討議を経て研究テーマを具体化し、それに向けての研究計画を立案する。調査能力、計画能力、プレゼンテーション能力、討議能力を身につける。			
(山内 太郎 准教授／3回)			
生活環境に対する個人および集団の栄養生理学的適応を評価するための調査研究計画を立案する。研究テーマに関連する先行研究を精査・検討して、何がどこまで分かっているか、何がまだ分かっていないのか、something new を明らかにする。プレゼンテーションと討論によって必要な知識の不足、論理構造の弱点などを浮き彫りにすることで調査研究計画をブラッシュアップし、論文作成能力を育成する。			
準備学習（予習・復習）等の内容と分量 Homework			
設定された健康科学関連の研究テーマの情報収集・分析、プレゼンテーション準備などの予習、プレゼンテーション後の課題の整理などの復習を十分に行う。			

成績評価の基準と方法 Grading System

1.演習の到達目標達成度(60%), 2.演習への積極的参加(40%)により, 5段階評価する。

テキスト・教科書 Textbooks**講義指定図書 Reading List****参照ホームページ Websites****備考 Additional Information**

科目名 Course Title	生物化学 I (疾病制御化学 I) [Biochemistry I (Molecular Signaling in Immunity and Cancer I)]		
講義題目 Subtitle			
責任教員 Instructor	高岡 晃教 [Akinori TAKAOKA] (遺伝子病制御研究所)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2011	時間割番号 Course Number	094054
開講学期 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class	講義	対象年次 Year of Eligible Students	1～2
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
補足事項 Other Information			

キーワード Key Words

シグナル伝達、遺伝子異常、生体防御、病気の分子メカニズム、免疫学、基礎医学、感染、癌(がん)、論文作製のテクニック、分子生物学的実験手法

授業の目標 Course Objectives

講義題目『感染とがんにおけるシグナル伝達』

<< 目標: 分子から個体レベルで生命現象を包括的に理解する >>

生体システムは、多様な生体構成分子による『オーケストラ』であると考えられる。様々な外部あるいは内部環境からのストレスに対して各パートが巧みに応答および調節することで、全体のハーモニーが保たれ、生体システムの恒常性(homeostasis)が維持される。しかし、そのパートの機能障害をきたした場合、不協和音を発し、全体のハーモニーが乱れ、生体システムの恒常性の破綻、すなわち病気を引き起こすことになる。このように生体システムは、様々な生体構成分子によるネットワークが時空間的に制御・統合されていることで成り立っている。このようなネットワークの構成のしくみが、生物化学的なエビデンスに基づいていることは言うまでもない。本講では、生体システムの静的構成および動的変化について、分子レベルから細胞レベル、さらには個体レベルへと展開させて段階的に理解することを目指す。とくに病原体やがん細胞に対する生体防御の基盤となっているシグナル伝達系に焦点を当てる。

このように化学の分野で修得した知識をもとに、さらに応用・発展させ、生命現象をより包括的・統合的に理解することを第一の目標としている。さらに、本講では、学術論文作成のテクニックや分子生物学的実験手法の基礎と応用についても論じ、大学院生に実践的に役立つ内容も取り入れていることも特徴である。

到達目標 Course Goals

<< 学横断的な研究視野を修得し、柔軟な思考と創造力の基礎づくりを目指す >>

本講の最終目標は、とくに化学と医学の学横断的な立場から、生体システムを構成する様々な分子の生理的な役割と機能的な異常としての病気の発症や病態メカニズムとの関連性を学ぶことで、総合化学的な研究視野の1つを育てることである。ひいては化学の枠を越えた幅広い知識と柔軟な思考や創造力を備えた研究者の育成に本講が少しでも貢献できることを目指している。さらに、大学院生にとって必須な学術論文の構成法や作成法についての基礎を学び、「魅力的な論文」を作成するテクニックを学んでもらいたい。また、分子生物学的実験手法の応用法についても学んでもらい、実践で役立てて頂けると幸いです。

授業計画 Course Schedule

<< 生体防御に焦点を当てて、生体システムの正常と異常を学ぶ >>

本講では、生体システムを正常と異常という2つの局面に分けて、講義を展開していくことを計画している。

まず、第1章においては、生体システムのマクロなコンポーネントとしての臓器や器官についてその生理的機能や役割について解説を始め、次第に細胞および分子のミクロのレベルへ掘り下げて講義を展開する。次に外的および内的ストレスに対して恒常性を維持するための生体の応答系について解説する。なかでも外的ストレスとしての病原体の感染に対する生体防御システム、すなわち免疫系について概説する。ヒトやマウスがウイルスなどの侵入を受けた際に、どのようなメカニズムで侵入した病原体を認識するのか？ どのようにして特異的な病原体排除の仕組みが成り立っているのか？ — これらの問題について 細胞内化学反応のカスケードとしてのシグナル伝達経路という観点から解説を行い、その基盤となる分子メカニズムを理解してもらうことを計画している。さらに時間があれば、内的なストレスとしての発がんに対する生体防御応答についても概説する。

次に第2章として、この恒常性維持のために働く免疫系の破綻がもたらす病気の発症ならびに病態形成メカニズムについて解説する。ここでは、生物化学的根拠に基づく生命現象の分子レベルでの異常が如何にして疾患病態に関連するか、細胞さらには個体レベルで再構築して考える。このような流れで、関連する基礎医学的な知見を加えて、感染症や、免疫疾患、がんを主体とする病気についての病理学的かつ分子生物学的な理解を深めるとともに、これらの分子メカニズムに基づいた治療戦略についても紹介する予定である。

最後の第3章では、上記の講義内容に基づいた「応用と実践」である。講義内容を発展して理解することを目的に、Nature や Science 誌などに掲載されている実際の関連論文において使われている実験テクニック(主に分子生物学的実験手法)についての基本知識や応用について、毎回講義の最後の10～15分の間で紹介していく予定である。また、学術論文の書き方の基本をはじめ、如何に「魅力的な論文」に仕上げるか—論文の構成のコツなどについても概説し、さらに普段学ぶ機会がほとんど無いと思われる実際の論文プロセスについても

実際に Nature などに投稿された論文の例を挙げて解説する。具体的には、Editor への手紙の書き方からはじまり、論文 referees/reviewers からのコメント、これに対する rebuttal (referees/reviewers へのコメント) の書き方について、実際の例を挙げて、論文投稿からアクセプトへ至るプロセスについての流れを解説するなど、大学院生にとってより実践的な内容も取り入れたいと考えている。

以下に講義内容の主な項目について記す(ほぼ以下の各項目の順で講義を予定している。詳細スケジュールは初日に配布する予定である)。毎回講義に関する資料のカラープリントを配布する予定である。

<第1章 生体システムの正常>

- (1)からだの仕組み(生化学、生理学、解剖学的視点から構造と機能について解説する)
- (2)生体防御システムの総論(自然免疫系と適応免疫系)
- (3)抗体分子に関する基礎知識(抗体の多様性など)およびその臨床応用
- (4)免疫担当細胞(樹状細胞、NK 細胞、リンパ球など)の役割とその機能発現に関する分子メカニズム
- (5)免疫系を制御する液性因子の役割とその作用メカニズム(とくにサイトカインの産生メカニズムやその細胞内シグナル伝達)

<第2章 生体システムの異常>

- (1)病原微生物(とくにウイルスや細菌)に関する基礎知識
- (2)生体防御システムの破綻がもたらす病態や疾患(感染症やがんを中心に)
- (3)生体防御システムの破綻の分子メカニズム(遺伝子異常と免疫不全)
- (4)病態の分子メカニズムに基づいた治療原理(遺伝子治療など)

<第3章 研究に関する基礎知識の習得およびその応用と実践>

- (1)Nature や Science 誌などの学術誌に掲載されている論文において使われている実験テクニックの基礎と応用
- (2)論文作成のポイント:論文の書き方、構成方法の解説など
- (3)論文プロセスの実際:投稿からアクセプトに至る流れについて、Editor や referees/reviewers へのコメントの書き方の基本について、実際に Nature などに投稿された論文の例を基に解説

準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework

予習・復習については、とくに義務的なものを設定しない。講義の時間に集中して参加してもらうことを第一と考えている。もちろん、可能な限り、講義以外の時間に自発的に講義内容について発展性をもって検索・学習することにつながるような講義になるよう、努力したい。また、これら準備学習あるいは復習を希望する受講者については大いにサポートしたいと考えている。

成績評価の基準と方法 Grading System

可能な限り、インタラクティブな講義を展開し、基本的には、履修状況を含めた講義や実習に対する積極的な姿勢を評価の対象とする。例えば、質問に対する正しい答えを望んでいるのではなく、自発的に論理的に思考する姿勢を重視する。また、基本的に書面試験のみによる評価は行わない。書面試験は、講義内容の理解度を問うものであり、毎回配布するプリント資料は持ち込み可である。これに加え、成績評価の対象の1つとしてのレポートも原則1回だけとし、できるだけ1つ1つの講義に集中して楽しんでもらうことができるように計画している。レポートのテーマは講義の中で最も興味があるものを1つ選んでもらう。そのテーマをより詳細に調べて学習した形でも、または現在行っている自分の研究テーマと関連付けて独自の発想で仮説を展開する形でも形式は自由である。

なお、成績評価の方法は、総合的に判断し、秀・優・良・可・不可の判定で公正に行う。本講における基本的な総合成績評価基準として、以下の3つのポイントを考えている(各々の括弧内の数値はその評価割合をおおよそその%で示したものである)。

- 1)試験およびレポート(70%)
- 2)出席状況(20%)
- 3)講義に対する積極性および学習態度(10%)

テキスト・教科書 Textbooks

教科書やテキストは特定しない。免疫学、分子生物学、生化学、生理学など、とくに基礎医学に関連した多様な分野の参考資料をはじめ、時には最新の関連学術論文を紹介するなど、毎回講義用のプリントを作成することを計画している。もちろん、希望者には関連する教科書や資料に関するアドバイスを積極的に行いたい。

講義指定図書 Reading List

前項目にも記したように、偏らずに広い範囲で多様な教科書や文献資料を提供したいため、講義指定図書は敢えて設定しない予定である。

参照ホームページ Websites

講義内容と関連する情報や資料を掲載していることから、是非、以下のホームページを参考にして頂きたい。、
<http://www.igm.hokudai.ac.jp/sci/>

備考 Additional Information

問い合わせは、気軽に下記までご連絡ください。

電話:011-706-5020、内線:5020

E-mail: takaoka@igm.hokudai.ac.jp

(遺伝子病制御研究所 分子生体防御分野 高岡晃教)